ほっとファミリーは養育家庭の愛称です。

養育家庭（ほっとファミリー）
体験発表集
（平成25年度）

東京都福祉保健局少子社会対策部

「養育家庭（ほっとファミリー）体験発表集」の発行にあたって

都内には、様々な理由で親と一緒に暮らすことのできない子供が約4,000人います。

都では、このような子供たちが、実の親にかわり、家庭的な環境の下で生活できるように、養子縁組を目的としない「里親」（養育家庭）の普及啓発につとめています。

そして、多くの方に里親の制度を理解していただくとともに里親になっていただけるようにと、各区市町村と協力し、養育家庭体験発表会を開催しています。

この冊子は、平成 25 年度に開催された体験発表会において、養育家庭の皆さんに発表していただいた内容を要約し、冊子にまとめたものです。

初めて子供に出会ったときの感動、交流中の思いがけない出来事、委託後の子供の赤ちゃん返りなどの問題やあわただしい日々の様子など、子育てに奮闘している様子が描かれています。また、実名と通称名のことや実子との関係など、里子を育てることゆえの悩みについても語られています。

しかし、そういったご苦労の中にも、子供が少しずつ家庭になじんで心が通じ合っていくのが実感でき、養育家庭をやっていて良かったという話や、悩んだ時に里親仲間など周りの人から支えてもらった話など、里親(養育家庭)だからこそ味わえる子育ての素晴らしさにも触れています。

より多くの都民の皆様にお読みいただければ幸いです。

平成２６年９月

東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課長

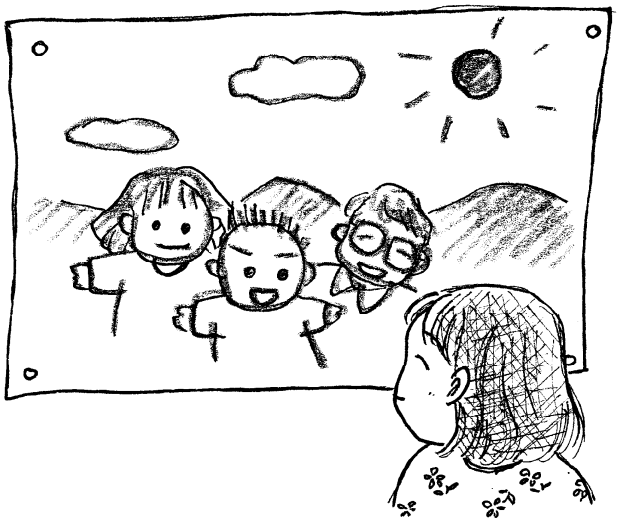
栗　原　　博

目　　次

１　途中からの養育～授かった家族～　・・・・・・・・・・・・・・・・　２
２　家族への旅立ち　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
３　交流から我が家へ～家族になっていくとは　・・・・・・・・・・・　６
４　あたらしい家族・大切な宝物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８
５　山あり谷あり…でも　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
６　笑顔の贈り物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
７　ひとつの家族　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
８　家庭でしか与えられないもの　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
９　当たり前の家族　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
１０　実子という一番のパートナーと共に　・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
１１　里子としての私　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
１２　子供と一緒に成長　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
１３　里親さんから教えてもらったこと　・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
１４　私の里親人生　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０
１５　主たる養育者、里父　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２
１６　うちなんか、なんちゃって家族　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４
１７　いつか里親になろうと思っている人たちへ　・・・・・・・・・・・・３６
１８　これが使命かなと……　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８
１９　里子としての体験をいろんな人に話して
養育家庭を広めていきたい　・・・・・・・４０
２０　養育家庭の戸惑いと喜び　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４２
２１　素晴らしく激変した日々　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４４

養育家庭（ほっとファミリー）

体験発表会に、ようこそ！！



この体験発表集には、21組のほっとファミリーの方たちの養育体験がつづられています。

より多くの方々に、この養育家庭制度を知っていただき、ご理解と共感を得られることを、何よりも願っています。

そのことが、ほっとファミリーの方と、そこで生活する子供たちを支えることにつながるのです。

1　途中からの養育～授かった家族～

【里母】

里親に登録してまだ４年で新米ですが、私が経験したことをお話します。私も６年ほど前に、体験発表会に足を運びました。当時の私は、それまでの生活に区切りをつける決心をした時期でした。婦人病で何度か手術をし、その後、妊娠、流産、不妊治療と病院生活が続いていました。養育家庭制度のことを主人に話すと、私が前向きになったことを喜んでくれ、話し合いを重ねた上でやってみようということになりました。私の母は「自分の子供ではない子供を育てるのは大変なこと。そんな苦労を娘に背負わせたくない」と心配し「でも、預かることになったなら最後までしっかり育てなさい。自分が悩んできたことの解決策にその子供を利用しちゃいけない」と言いました。この言葉は、私に深く響きました。養子縁組ではなく、養育家庭と決めたのは「自分の子ではないけどしっかり育てるんだ」という決意だったように思います。現在、私達夫婦は２年前から一緒に暮らしているＮ君と主人の父との４人家族になりました。実家の母も預かったからにはと、孫同様にかわいがってくれています。

さて、４年前に養育家庭に登録した私は何の知識もなかったので、サロンで聞く先輩里親さんのお話から、多くを学び、いろいろな場面でそのお話が頭に浮かび、先輩の存在を心強く思い、感謝しました。また、レスパイトといって、１日とか数日、ほかの里親さんに里子を預ける制度があり、この制度で小さな子をお預かりして、家の中に子供がいる風景を少しずつ体験させていただきました。登録から１年余りが過ぎた頃、児童養護施設で暮らす５歳半の男の子と会うことになりました。結果的には、交流期間は８ヵ月と長めでしたが、年長さんの夏休みから我が家に来ることになりました。少し遠かったのですが、幼稚園は変えることなく通わせたので、毎日施設の仲間と会い、住んでいるところ以外はあまり変わらない環境で移行していくことができました。交流期間は、子供によって違うと思います。一番よいのは、その子の状況を考えることと、私たち里親が無理をし過ぎないことだと思っています。

生まれたときから一緒に過ごすことと、５年半といえども途中から生活を始めるのでは、いろいろな違いがあります。私の場合、まず、子供に何を食べさせたらよいのかが不安になりました。また、Ｎ君は初めのうちおやつにチョコレートのような甘いものばかり食べたがりました。新しい友達ができ、生活に慣れてくると甘いものと言わなくなったので、それで寂しさを紛らわせていたんだと後から気付きました。しかし、最初のうちは、何でも施設のほうがおいしいと言われショックでした。最近では、私のつくる普通のカレーもおいしいと言ってくれま

す。味覚というのは、愛情や温かさの原点だと思います。Ｎ君も家に来る前にでき上がった味覚が、彼の愛情や思い出につながっているのでしょう。最初は味が合わなくても、徐々に慣れてくるものだと信じて、彼に合わせながら少しずつ自分の味を出していこうと思っています。小学２年生になり、今では、肉や魚、野菜もよく食べるようになり日に日にたくましくなっています。

もう一つ、途中からの養育で大変だと感じるのは、私たち夫婦が子供にとって絶対的な存在ではないということです。普通５歳ぐらいだと知っている大人は両親だけ。あとは、祖父母や幼稚園の先生ぐらいですが、Ｎ君の場合には、既に施設などで多くの大人たちと出会っています。その人たちに見守られて、安心、安全という気持ちは満たされていますが、入れ替わり立ち替わりで特定の人ではありません。そこが一般家庭と違います。ですから、「あれ？」と感じることは多々あります。ちょっとおかしいなと感じたら、Ｎ君と話し合い、どうすればいいのか私達の考えを話します。同じようなことは何度も起きるので、その都度言って聞かせていくと、子供の心の中に私達の思いが通じていくように感じます。

Ｎ君が家に来て２年になり、少しずつＮ君の考えや行動に、私達夫婦が言ってきたことが身についてきたように感じます。「毎日ともに生活している」これに勝るものはないと感じられる変化です。私達にとってＮ君は、本当に授かりものです。Ｎ君をお預かりしてから、私の生活そのものがＮ君一色に変わりました。家の中が明るく騒がしくなり夢に見た生活が実現され、一方で、Ｎ君の行動や言動に振り回される大変な面もありました。そんな時に、里親支援で月に１回、心理士さんが訪問してくださったのは、ありがたかったです。このシステムがあったから、全てが初めての私でも、何とか軌道に乗ることができたと感謝しています。また、養育家庭は年に１回報告書を提出したり、児童相談所の方が訪問にきます。「Ｎ君は私たちだけのものじゃない。お預かりしているんだ」と改めて思い、複雑な気持ちになりますが、このような寂しさを感じるのは、私達とＮ君の距離が縮まった証とも感じます。

Ｎ君は、最初から自信に満ち溢れ、現在もスポーツ万能、遊びも得意で、なかなかの人気者です。勉強もよくできています。それもこれも、彼が生まれたときから乳児院と養護施設の先生方、そして今は、私たち家族の愛情をいっぱい受け、多くの人に支えられて成長しているから。そう思うのが前向きでいいのかなと思っています。Ｎ君ももう少し大きくなると、いろいろな問題を抱えると思います。そんな時には親身に考えてくれるたくさんの人がいる。それは本当に心強いことです。それこそが養育家庭なんじゃないかなと私は思っています。

2　家族への旅立ち

【里母】

現在、小学校 4 年生の女の子を養育しています。身長、体重は私と同じくらいです。５年前の 11 月に交流が始まり、卒園と同時に一緒の生活がスタートしました。

何からお話ししようかと色々思い出していたのですが、今でも忘れられない事の一つです。初めて我が家に来た時に、玄関に入るなり私の顔をじっと見ながらある事をしました。(このある事とは本人の名誉のために一応伏せておきますが。)この時に、この子は私の事を試しているのかなと思いました。ですから、私が笑いながら「元気だねー」と返しましたら、ニコニコしていましたので、彼女にしてみれば、とりあえずＯＫという事なのかと思いました。

２年ほど経って、子供担当の児童相談所の方にこの事を話しましたら、そう云う試し行動というのは初めて聞きましたと、お話ししていました。

受託時点で、児童相談所の子供担当の方から留意事項として、甘えが強いために、ワガママがひどいと誤解されやすいとの申し伝えが有りました。

我が家に来る前に、２つの家庭との交流があったことも聞いていましたので、覚悟の一つとして心に止めました。

子供も新しい環境のもと、慣れない中で一生懸命になじもうとしている様子は、時としてこちらが頭を抱え、心が揺れる事ばかりでした。

毎日の生活の事、名前の事、赤ちゃん返りを含む試し行動等、乗り越えなければならないことが次々と発生しました。時々、お友達ともぶつかり合って、泣いて帰ってくることも有り、親子共に切ない思いをしました。

頭を抱えた行動として、少しお話ししますと、交流中に外出し、夜になりましたので何処かで夕食をとろうと云う事になりました。子供はファストフードを食べたいといいました。１月の寒い時期でしたので、「夜は温かいご飯にしよう」と話したのですが、ガンとして譲りません。交流中ですし、あまりこちらの習慣ばかり押し付けてもと思い、希望通りの食事にしてあげました。ところが、その後おなかが痛い痛いと騒ぎだしました。油物と冷たい炭酸飲料は、思った通り子供のお腹には負担だったと思います。「オナカがドンドンしてる」と痛がる子供を横にして、お腹を温めてあげました。暫くして、落ち着いて来たころ、本人は「ママの話を聞かなかったから、神様が怒っちゃったのかな」と反省していました。私も、夜は温かいご飯を食べようねと納得させました。施設の職員の方からは、話せば分かる子ですからと、子供の性格の説明を受けていましたが。

この様に、自分の思いを押し通し、つまずくまでは承知しない事が多々ありま

した。

ただ不思議なことですが、そのどんな時にも、この子がイヤだ、嫌いだと思う事は一度もなく、気持ちはむしろ、その逆に向いていきました。

子供にも時々話をしますが、大変さも百万倍ですけど、可愛さも百万倍でした。そうしながら１年半位（２年生の中頃ですが）経つ頃には、徐々に気持ちが落ち着き、生活も安定して来ました。同時に、私共もこれで子供との関係も大丈夫だと思うようになりました。

１０歳になり最近では、心身共に成長の早さを感じています。相変わらずわがまま一杯ですが、一方で繊細で傷付きやすい面も持っています。

頑張り屋さんで、今年の夏の水泳の授業では、練習をして一級になりました。運動会では、４年生から６年生までのリレーの選抜選手に入り、朝早くから朝練に出かけていました。練習の成果もあってか、先頭でバトンを渡すことが出来てホッとしました。

我が家では、土日の夜は親子３人でオシクラマンジュウをよくします。初めは子供も小さかったので、ソフトなオシクラマンジュウでしたが、最近では汗びっしょりになるくらい、過激になって来ました。パパが大好きで、主人と私の間に挟まっているのが楽しくて仕方ないようです。

いったいいつまで続くかと思っているのですが、子供は「パパ今夜は寝かせないから」と一人で張り切っています。

また、私の体が丈夫ではないので、とても良く気を使ってくれます。

まだまだ道の半ばで、これから何が起るか想像も出来ません。
今は少しずつどういう方向に向かせてあげるのが良いのか、考え始めています。

毎晩、子供の寝顔を見ながら話しかけるのが一日の終わりの楽しみです。
１０歳になった日には、「１０年間良くがんばったネ」といつものようにほっぺたにキスしました。

児童相談所への１年に１度の養育計画の報告書には、何時もこの言葉で締めくくるので、今回もそうします。
「オマセで元気一杯なワガママ娘です。」

3　交流から我が家へ～家族になっていくとは

【里母】

初めて体験発表会に話し手側として参加させていただきます。私も４年前に聞く側にいて、「里親とは？」と、関心を寄せたのが里親になったきっかけでした。交流から数えると３年くらいになるのですが、実に様々なことがありました。

交流中には乳児院とすごく綿密な関係になりました。私が悩んだ時にとてもサポートしていただき、いろいろな素敵な言葉をプレゼントされました。私が、関係性が持てたのか、その深さについて悩んでいた時のこと、血のつながりのない里子、そして子育てはじめての私は、どうしたらいいのかといろいろ悩むことがありました。そうした時に「関わり方に正解なんてない！関わり方は里子が自然に教えてくれると感じています」と保育士さんから言われました。私のペースで、気負わずに、力を抜いて楽しんでくださいということを言われました。それから、「あっという間に大きくなっちゃうから、今、この瞬間を楽しんでください」と。確かに、もう５歳にもなると体重も20キロ近くになっており、今でも「抱っこ」と言ってくれるのですごくうれしいのですが、この抱っこももうしばらくでできなくなるのかとかと思うと、やはり「今」を楽しまなきゃと思っています。そして交流がどんどん進んで、随分なれてきた感覚が私達にも出てきた頃、それを客観的に乳児院で見ていてくださった心理士さんがくれた言葉ですが「吸い寄せられるような肌感覚に変化している。これはすごくうらやましい」と言われました。こんな最高の誉め言葉をいただき、感謝いたしております。

私達は１年かけて交流しました。周囲からは長過ぎるんじゃないかと言われた時期もありました。委託されて１年、今２年目を迎えているわけですけれども、その時々でいろいろなことが起こりました。

人を１人預かるってものすごく精神的にエネルギーが要ります。こんな自分で大丈夫なのかなとか、不安(ネガティブ)に思う日が何度となくありました。私がずっと仕事をしていたこともあって、交流日と交流日の間隔があいてしまい、なかなかうまくいかないなと感じることや、初めての子育てだから自分はダメなのかと、手応えを感じられない時がありました。それを傍で見ていた乳児院の方達が、少しでも交流を進ませようと思ってくれて、交流ノートをつくってくれました。私達はこれに里子の様子を書き、保育士さん達も彼女の園での様子を書いてくれたのです。私にとって、宝となったこのノートは2冊になり大切にしております。

その中で印象的だったことは、日中、楽しく過ごしたあとに「ばいばい。また次、来るね」と言って帰るのですが、その時は「ふん」という感じでそっぽを向

いて、すたすたと園に戻っていくのです。それをみた私は、おもしろくなかったのかなとか、嫌われちゃったかなとか、どうしてもそんな風に思ってしまい、ノートに自分の気持ちを書くと、乳児院から届くノートには「ばいばい」も言えなかった彼女は、私達が帰ったあと、追いかけたらしく、でも、私達はもうそこにはいない。そうすると、保育士さんの所にしがみついて、大泣きして「次はいつ来るの、いつ来るの？」というふうに聞いていた、ということが克明にノートに書いてあるのです。それを読むと、私達も自信がついて、お互いの気持ちが今度は向き合うようになっていくのです。そうすると、だんだん交流がうまくいくように回転していって、何とか初めてのお泊りの日を迎えることができたのです。

そのお泊り初日。昼間はすごく普通に過ごしていたのですが、だんだん暗くなって、御飯も終わり、お風呂も終わって、さあ、寝ましょうという時に、すごく大泣きし出したのです。「もう帰りたい」「帰らせてくれ」「自動車出して」「保育士さんに会いたい」と保育士さんの名前を連呼するのです。乳児院に今から電話しようと思っても、もう９時は過ぎているし、どうしたものかと考えた時、乳児院で見ていた同じDVDを見せてあげることを思いつきました。乳児院と何か一緒のものがあれば落ちつくんじゃないかなと思い、準備しておいたものです。すると私と一緒に歌って、踊って、はしゃぎ出したのです。だんだん泣き顔もなくなってきて、何とか落ちついて、にこにこ顔になって、疲れもあって、そのまますとんと寝るという感じで一日を終えました。その時は、やはりすごく大変だなと思ったのですが、後々考えてみると、とても普通の感覚だったなということに気づきました。そういうことがあったことに、今となってはすごくよかったなと思っています。委託になって、今保育園に通っているのですが、周囲の子供達の影響もあって、きちんと自分の中で変化を受けとめて、私達を「お父さん、お母さん」と自然に呼ぶようになってくれたことに、すごく安堵した記憶があります。駅の中で走りまわっていた子が、今ではすっかり落ち着き、成長のあかしなのかなと感じています。

里子と出会ってから「家族って何だろう」と考えてきました。主人も他人、子供も血のつながりがない。そういう３人が揃って、家族になるってどういうことなんだろう。できることって何だろう。家族の瞬間って何だろうと考えていた時のこと、私が台所で片づけをしていて、ふと、横を見ると、主人の膝の上にちょこんと座って、まったりと、何とも言えないうれしい顔をしていたんです。多分、安全地帯、安心していられる場所を作ってあげることが私達の役目で、それを自然に受け入れてくれた時が「家族になる」ということなのかなと感じています。これからも私を家族の一員としてよろしくね！

４　あたらしい家族・大切な宝物

【里母】

私たちは、夫婦と小学校５年生の実子の娘と、今、５歳の男の子の里子のＹ君、あと、犬が一匹と猫が一匹という家庭です。

里親登録してから１年半が過ぎたころＹ君、当時３歳の男の子の紹介を受けました。我が家にやってきたＹ君は、好き嫌いもないし、１人で御飯も食べられるし、１人で着がえも、トイレも、シャンプーもできるのです。日常生活のことが１人でできることにとてもびっくりしました。研修で、大人をわざと困らせる試し行動があると聞いていたので、ちょっと身構えていましたが、とてもいい子で、拍子抜けするくらいでした。そう思っていられたのは最初の２週間だけでした。まず、過食、白米は子供のお茶碗に４杯、牛乳は１回の食事で１本近く飲んでいました。過食が収まったら、今度は赤ちゃん返りが始まりました。「１人で食べられない」と言って手をおろしたままでいたり、今まで１人でできていたことを全てやらなくなりました。ある日、赤ちゃんグッズ売り場で、おしゃぶりを見ていて、「これ欲しいの？じゃあ、買おうか？」と聞いたら、目を見開いて、「えっ？買ってもいいの？本当にいいの？」と言って大喜びでした。赤ちゃん返りがなくなってきたころ、暴力を振るったり、暴言を吐いたりするようになりました。特にきっかけもなく、突然始まるのです。本当に不意打ち。まず、げんこつで殴ってくる。それを手でとめると、今度は足で蹴る、噛んでくる等々。暴力、暴言が収まったら、今度は泣き続けるという行動になりました。これには家族全員が参ってしまい、猫はＹ君が泣き始めると別の部屋に逃げます。延々と泣き続ける日が１ヵ月半くらい続きました。抱きかかえたら「誰かー、助けてください。誰かー、お願いします」と本当に悲痛な泣き叫び声を上げるので、通報されるのではないかと心配したくらいでした。なぜ泣くのかはわからずに、Ｙ君もとても苦しかったと思います。ある日、私が台所で食器洗いをしていると、またいつもと同じように急に泣き出しました。私が「ママもどうして泣くのかわからないし、Ｙ君が泣くとママも悲しい」と言って、私も泣いてしまったのです。そうしたらＹ君がぴたっと泣くのをやめて、私の泣いている顔をじっと見つめまして、それを最後に理由もなく泣き続けることがなくなりました。

我が家に来て約半年後の９月から幼稚園に通うことになり、最初は調子よく行っていたのですが、10日ぐらいたってから通園グッズを隠すことが始まりました。幼稚園側とも相談して、手ぶらで幼稚園に行ったこともありました。お姉ちゃんの学用品も隠すようになりました。前の晩、用意したときにはあったものが、翌日学校に行くとランドセルに入っていないということが毎日でした。頻繁に忘れ

るので、周りの子に「本当に弟が隠したの？宿題やるの忘れたから弟のせいにしてるんじゃないの？」と疑念を抱かれてお姉ちゃんも随分と落ち込んでいました。

Ｙ君は物心ついたときから施設にいました。みんなが施設にいて、そこから里親家庭に行ける子供もいるのだと思っていたようでした。施設では、担当してくれる方を先生と呼んでいました。お世話してくれる立場が私で、ママだから、ママイコール先生。ママと先生が同じ意味だと思ったようです。幼稚園の先生のことも、先生と呼んでいるからママだねと言って、幼稚園の先生をママと呼んだ時期もありました。

Ｙ君が我が家に来て10ヵ月が過ぎたころ、随分と落ちつきました。幼稚園の先生にも、表情も中身も柔らかくなったと言われて、周りのママ友からも、表情が落ちついたねと言われるようになりました。それまでの表情は、目つきがとんがっている日が多かったように思います。写真も今から見るとこわばった表情ばかりでした。来た当初は、初対面の人に、このときだけは本当に天使のような微笑みで近づいて、その人の手を握ることが多かったのですが、そういうことも気付いたらなくなっていました。Ｙ君が落ちついてくるとお姉ちゃんも落ちついてきました。我が家に来て１年がたったころ、Ｙ君がミニカーで遊びながら「Ｙはここのおうちに来られて本当によかったな」としみじみとひとり言を言ったのです。それを聞いて、やっとここがＹ君にとって安心なところだとわかってくれたのだなと本当に嬉しくて涙がこぼれました。お姉ちゃんが「そういえば、Ｙ君は去年の今ごろうちに来たんだよね。まだ１年しかたっていないんだ。もうずっと前からうちにいる気がする」と言ったのです。それまで豹変するＹ君に戸惑ったり、弟だけれども、弟ではないという心の葛藤とか混乱があったけれども、やっとＹ君を100％受け入れたのかなと感じました。

最初の１年間が本当にとても大変でしたが、今は無邪気で、とてもかわいいＹ君です。大変な１年間を乗り越えられたのは、両親やママ友、幼稚園、学校の先生方の理解や協力があったからこそです。また、里親仲間の電話やメールでの励ましは、心の支えでした。さらに、児相の方々が電話で話を聞いてくれたり、施設の方が、何か困ったことがあったらいつでも電話をしてと、相談に応じてくれたり、とても心強かったです。本来は、Ｙ君は穏やかで心優しい性格です。今は「ママがおばあちゃんになったら、今度はＹがおんぶしてあげるね」と言ってくれたり、幼稚園のお迎えが少しでも遅くなると「ママ、遅いな。お月様まで行っちゃったのかな。大丈夫かな」と心配してくれたり、パパが仕事に行くときには、マンションの１階までお見送りに行って、何回も「行ってらっしゃい」と言って手を振っています。今、Ｙ君はとてもとても大切な宝物です。

5　山あり谷あり・・・でも

【里父】

何か社会に貢献させていただきたいなと思っておりましたときに、私の周りには、里親をしている仲間が大勢おりまして、里親としての活動の話を聞く機会がたびたびありました。里親というものに非常に興味を持って、養護施設の満杯状態や、里親のなり手が少ないという話も聞くにつけ、やらせていただこうという気持ちに最初になったのは、私のほうでした。また、人様のために働かせていただいているという実感を持てるような気がしたのであります。

しかし、里親は私１人ではできません。いろいろ家族で話し合いをするうちに、最終的には、妻をはじめ、子供たちも賛成してくれまして、さらには、周りの里親の方からも強く背中を押されまして、里親の登録をいたしました。

子供を待っている間に夫婦で、実子でも、里子でも、親は子供を選べないし、子供も親を選べないということをよく話ししていたのであります。私は、親子の関係というのは、天から与えられたものだと思うし、そう考えたときに、御紹介いただいた子供さんは、私たちもその子供さんを選べないし、その子供さんも私たちが里親になることを選べないのだから、いろいろな事情はともあれ、紹介を受けたら、受けさせていただこうということを話しておったのであります。

2010年の12月、一時保護所があくまでの２週間程度でいいので、小学校２年生と幼稚園の年長さんの姉妹をお預かり願えないでしょうかという依頼を受けまして、初めて一時委託という形で子供さんをお預かりしました。ほんのわずかな期間でありましたが、お預かりして別れるのがちょっとつらくなって、私は涙が浮かぶほどでありました。

それから３ヵ月後に、この姉妹を正式に里子としてお預かりすることになりました。2011年３月８日であります。上の子はうちに来た翌日から学校に行くため、転校の手続をしたり、下の子は４月から入学予定の小学校の変更やら何やらの手続と、慌ただしくしている３月11日に東日本大震災が起こりました。したがって、うちでお預かりしている子供さんは、震災のときからですから、よく人様に「どのくらいたちますか」と言われると「２年８ヵ月ですね」とすぐわかるというか、そういう時期にお預かりすることになったのであります。

その大震災が始まりのように、それから今日まで、それはそれは平坦な道のりではなく、今でも山あり谷ありで、そういう道を毎日通っている気がするのであります。その山あり谷ありの里子との会話で非常に印象に残っている言葉が幾つかあります。その１つに、児童相談所の方と最初にうちに来たときに、暮れの時でありますが、私たちを見て２人は「お父さん、お母さん」と言ったのでありま

す。妻は、一瞬、おじちゃんおばちゃんじゃないのかなと戸惑いも感じたのですが、この子たちはこの子たちなりに生きていく術を知っているのかなと思ったり、あるいは早くお父さん、お母さんと呼んだほうが私たちに好かれるというか、小さいながらも思っているのかなとか、いろいろ思いをめぐらせたのであります。しかし、そんなこともちょっと時間がたつと、違和感はすぐになくなりました。

また、うちに来た最初の夜に、お姉ちゃんのほうが妹のことを思ってか、私たちに「おねしょしたら怒る？」と聞くのであります。私たちは妹に「おねしょするの？」と聞いたら「ときどき」と言うので、私たちは「怒らないよ」と答えると、安心したのか、ぐっすり寝ましたが、翌朝早速、おねしょをしたのであります。正式委託になってからもたびたびおねしょをしまして、怒らないと言ったのに、妻などは「もうすぐ１年生なのに、もう全く」と言って「また今日も布団干さなきゃならない」とかと言っておりました。今はもう３年生で、もちろんおねしょはしないですが、最初に子供からそういう言葉を聞いて、何となく言葉に言い表しにくいですが、抱きしめてあげたくなる気持ちにさえなったのであります。

また、生活する中で里子の欠けている点といいますか、そういうことを考えたとき、子供の３歳くらいまでの幼児期の生活や学習が大切だということをよく聞きますが、まことにそのとおりだなと思うのであります。人間というのは育っていく中で何事も一段一段積み重ね、そして、その一段一段の積み重ねの上に次を積み重ねて成長していくので、土台のない幼児期、３歳くらいまでを大きくなってからつくる、埋めるのは至難の業だなと感じつつ、日々の生活を送り、教えられることは多少、言葉が強くなっても教え、勉強も一緒に見てあげられるときは精いっぱい一緒に勉強をしているわけであります。そういう強い口調が、近所の方の耳に入ることもあると思うと恥ずかしくなるときもありますが、近所の方も、家の前で子供たちが遊んでいると声をかけてくれたり、見守ってくださり、いろいろ気にかけてくださって、非常にありがたく、助かっているのであります。

今、お預かりしている子供２人は、最初は１年の短期の予定でしたが、予定は未定で、決定ではございませんので、今は中期の委託になっていて、その接し方もある意味微妙、特に下の子は発達が大分緩やかということで、いろいろな面で心配があり、苦慮することもあります。しかし、委託期間にかかわらず、子供たちにとって楽しい家庭となるよう、また、里子たちが私たち里親と生涯のおつき合いができる親子になれるように、いろいろな問題点を少しでも修正しつつ、学校の先生や児童相談所の方ともよく話し合いながら、よりよき方向に進めて、里子が安心して生活できる環境を提供できるように努力していきたいと思っている次第であります。

６　笑顔の贈り物

【里母】

我が家に６歳の里子が暮らし始めて、１年１ヵ月になります。児童相談所、今通っている保育園、乳児院、Ｔ市、地域の皆さんのお力添えがあればこそ、こうして実現しているものだということを、感謝とともにまず、最初に申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

私たち夫婦が里子を育てようと考え始めたのは、夫が「里子を育ててもいいな」と言ったことからです。それまでも、私自身は実子の男の子が３人いるのですが、実子以外にも子供を育てたいなと、若いときからずっと思っていました。

ちょうどその頃、長男と次男が就職で家を出まして、そのとき家にいたのは三男だけでした。そこで、養育家庭体験発表会に参加しました。忘れもしない、ちょうど３月11日の大震災の日です。その後、話がどんどん進み、児童相談所に通い、家庭訪問や給与の所得証明などから始まり、研修も、児童養護施設の実習もしました。こんなことまでして、こんなことまで聞かれるのかとちょっとびっくりして、大変だなと思いながらも、確かに預かった後で困ったことがあったらお互いに不幸だし、こういう面倒なことができないと預かる資格もないよなと思い、自分に言い聞かせながら、申し込みから９ヵ月が経ちやっと里親に認定された次第です。

我が家に来た里子には、障害があるというのが一番心配するところでしたが、里子のいる乳児院まで４ヵ月間通いました。健常児と比べてみると、確かに会話はほとんどないですし、動きも少なくて、遊んでいても物足りなく感じることが多々あったのですが、穏やかで優しくて、本当に素直なところが素敵なお子さんでした。児童相談所が私たちの家庭環境や、年齢などを考慮して紹介してくださったのがよくわかる、よいマッチングだったと思っています。

ただ、受け入れ後には、次々と手続があって、私は、平日の９時から３時までパートの仕事をしているので、仕事をしながらの市役所や銀行などの手続きは本当に大変でした。障害があることで、福祉のお世話にもなるのですが、Ｔ市は里親が少ない上に、障害児の里子というのは受け入れが初めてだったので、不明な点も多くて、Ｔ市の育成支援機関への入会も、障害を持つことからスムーズにできず、一つ一つに時間がかかり、やっと解決できたなと感じています。

これから、写真を見ていただきながら、私たちの１年間の歩みを紹介します。

「初めての我が家」というのが、初めてうちに来て、昼寝をして乳児院に帰ったときの写真です。頭のところにティッシュの山があるのですが、知らない家で昼寝をしたくなくて、ぽろぽろ泣き出して、自分で涙をティッシュを出してはふ

き、出してはふきを繰り返していたのですが、そのうちティッシュを出すほうが楽しくなり、結局、寝てしまったときのものです。本当にとてもかわいいなと思いました。

次は、保育園での写真です。入園が決まったのも、児童相談所が通える範囲の保育園に何度も電話をかけて、里子のことを伝えてくれたおかげです。働いている人が多い現代、保育園に入園が決まらなかったら、私はパートの仕事ですが、すごくやりがいを感じているので、その仕事をやめてまではきっと預からなかったと思うので、児童相談所の積極的な働きかけはありがたかったです。受け入れに当たっていろいろ面倒なことがあったと思いますが、それを引き受けてくださったＴ市にも感謝しています。

そして、七五三のときの５歳の写真です。クリスマス、お正月と続きますが、行事でどんどん関係も深まりました。一緒に暮らしていない私や夫の両家の親族とも、こういう行事を通して仲よくなってきたと思います。このころには、手をつながなくても歩けるようになって、それが一番うれしかったことです。会ったときには、歩く経験が少なく、足が本当に細かったのですが、筋肉がついて、見るからに太くなってきました。

最後の写真です。保育園では、自分の年齢と同じ５歳児クラスに入れていただいたので、里子も初めは体の大きな子に囲まれて戸惑ったでしょうが、保育園のお友達が里子を認めてくれ、本当に優しく教え、受け入れてくれたおかげで、里子自身もできることが格段に増えました。担任の先生はじめ、先生方は大変だったと思うのですが、遠足など全ての行事に参加させていただき、頑張る気持ちも育ってきたと思います。ありがたいと思います。最近では運動会のリレーで走ったり、パラバルーンでお遊戯したり、感動ものでした。

養育家庭は関心のある方なら誰でもなれると思いますし、実際、どうしてもうまくいかない場合は、お互いに傷にならないうちにどの段階でもやめることができます。養育家庭になれば、確かに体を使うので、若い方のほうがもちろんいいのでしょうが、私たちの年代でも、孫感覚でおおらかに育てられると思います。時間と体力を１人の子供の生活のために使えるのであれば、ぜひ皆さんにもしていただきたいです。

先日、私は、映画の『そして父になる』を見てきたのですが、ともに過ごす時間が家族をつくるということを毎日実感しています。今、一緒に暮らす私たち夫婦と三男と里子が、ともに幸せだと感じる時間を、これからも積み重ねていきたいと思います。

7　ひとつの家族

【里父】

我が家は、妻、小学２年生と年中の女の子、私の両親、そして、去年委託された現在高校１年生の女の子Ｍちゃん、先月委託された２歳の男の子の合計８人で暮らしています。

私は母子生活支援施設で少年指導員として働いており、専門性を持って子供に関わっていても、やはり子供に何か届かないという気持ちを自分の中で感じていました。子供たちに何を伝えたいのだろう、何が大切なのだろうと、日々考えながらやってきた中で、その答えは、家族にあるなと。しかし、里親になるということはまだ小さい実子にとってはどうなのか、夫婦で話し合い、子供にはひとつ屋根の下で生活をともにする家族がどうしても必要なのだ、そのことは必ず私たち家族にとってもプラスになるとの結論に至り、ほっとファミリーになることを決めました。

高校生の里子は、当初、母子で生活している中学３年生の女の子で、お母さんが体調を崩して入院することになったので、入院の間の一時的な保護依頼ということで我が家に来ました。バレー部キャプテンで、エースアタッカーということで、とにかく食事と寝るところがあって、今まで通り学校生活を送れるよう支援してほしいということだったので受けました。しかし、実際に彼女がやってくると、色々と困ったことが毎日発生しました。食事は、毎日が食べ放題という感じで、御飯の場合は山盛り２杯に、大皿のおかずの大部分を食べてしまうという状況で明らかに食べ過ぎでした。なれるまでは様子を見ようということにしましたが、食パンだと８枚入りを５枚はペロリと食べて、マーガリンとかは隅から隅まで厚塗りできれいに塗って、その上にまたジャムをたっぷりと塗り重ねた形で、さすがにこれはちょっと多いかなと思いつつ、ありのままで御飯を食べていました。数カ月過ぎてみると、体重は明らかに増えていました。年頃の女の子なので、体重が増えたというのは言えないのかなと思い、「私も体重が増えて健康診断で引っかかって減量するように言われたから、みんなで健康のためにダイエットでもしようか？」と呼びかけたところ、妻とＭちゃん３人でやることになりました。その頃にはもう一通り食べて満足もしたと思うのですけれども、それを機にマーガリン、ジャム、マヨネーズやドレッシングなどに気をつけて食べられるようになりました。また、Ｍちゃんは、みんなが食事の準備をしている間に食べ始めたりということがあったのですけれども、ある時、「一緒にいただきますをするまでは待っててね」と伝えました。「私はいつも御飯を食べていた時には１人で食べていたからわからなかったんだ」とＭちゃんは言い、そういうこともあるんだ

なと思いました。今月来た２歳の男の子は、一緒に御飯を食べる時、いただきます前でも御飯があれば当然食べたがり、今はありのままを受けとめていく時期だなと思っているのですけれども、Ｍちゃんもそのことをとてもよく理解してくれて、多分、以前の自分とも色々重ねているのだと思うのですけれども、いただきますは家族そろってするというルールを自ら男の子に伝えてくれたりしています。

高校に行ってからの生活は、漫画の『黒子のバスケ』というものに憧れてバスケット部に入部しました。週４回の練習ですが、持ち前のパワーと運動神経で、期待の新人として試合でも活躍しているようです。バレー部の時は週６回の練習や試合をこなしてきたので、最近は休みの日になると「ああ、ひまひま、つまんない。」と言いながらリビングで過ごしています。「ひまならお手伝いしてください。」とか「ブックオフでも行ってみれば？」などとコミュニケーションをして、本当に自然に言いたいことを言って、そこにいるという感じです。

最近すごく感心したことがあって、Ｍちゃんが洗濯物担当になってくれていることです。以前は、「ちょっと忙しいから洗濯物を取り込んで！」「手伝って！」「一緒にやって！」ということでやっていたのですけれども、そのうち「洗濯物の取り込み、たたみは私がやるよ。」と言ってくれるようになっています。初めの頃は、全くしわも伸ばさず、かけるだけでしたが、「こうやってやるんだよ…」と一緒にやっている中で、あとは自分で色々考えたみたいです。洗濯物を干す前に分類したり、洗濯機の前で子供椅子に座ってしわを伸ばしたりしていました。

彼女が来て１年、今では自分の居場所を見つけ、以前は大体自分の部屋にいることが多かったのですけれども、今ではリビングや和室、洗濯の部屋など、自由奔放に居場所を見つけています。平日、私が休みで家にいる時、Ｍちゃんが学校から帰ってくると、私には「ただいま」と言って素通りして、キッチンにいる妻にまっしぐら。食事の準備などを忙しくしていてもお構いなしに、「ねえねえ、何とかかんとかで、今日こんなことがあってさ…」と妻を追い回しながら色々なことを報告していてます。やはりママに聞いてもらいたいんだ、と見ているのですけれども、その時、妻の顔は全く余裕がないということが多くて、間違いなく空返事かなと思いながら横目で見ています。そんな状況の中で、さらに下の子たちがママに話しかけてくるのですけれども、「もう、うちが話しているんだから、割り込んでこないでよ！」と言って、ママの取り合いをしています。

このように、家での居場所を勝ち取って、日々、同じように過ごしています。この当たり前の生活を大切に今後も過ごしていきたいと思っています。いまだにびっくりすることもありますが、普通の子育てと同じかなと思っています。我が家は里子も一緒の家族だなと感じています。

８　家庭でしか与えられないもの

【里母】

我が家は、主人と私と猫４匹で暮らしていました。実子に恵まれなかったので、家庭で暮らすことのできない子供に使ってもらうのがいいのではないかと、思っていましたが、我が家は普通のサラリーマン家庭で、専門知識を勉強したことがなく、子供を育てた経験もなかったので、いい親になれる自信はほとんど無く、人を養育するという大きな責任を担いきれるかを何度も考えました。そして、もし里子に来てくれる子がいるとすれば、血縁に劣らない深い深い縁があると信じ、真心を持って接すればきっといい家族になれて、大切に育てていけると結論しました。

当時３歳のＭ君との交流が決まり、初夏の盛りに１日おきのペースで、乳児院へ通いました。しばらくは職員さんやお友達が一緒に過ごしてくれるうちは、人見知りする彼もそれなりに相手をしてくれましたが、外出時に手をつないだ時の、グーに握られたままの手が、そのころの彼からの距離感を顕著に表現していて、結構へこみました。初めての２人だけの外出の時は、嫌がって泣き叫んで、何とか玄関の外に連れ出したものの、門にしがみつき、てこでも動かないのには参りました。職員さんが強制的に連れていくようにと助言してくださって、暴れるのも構わずにだっこして、人さらいのようにして出かけ、しばらくすると暴れるのも泣くのもやめて、話せる状態になりました。彼はもともとだっこが大好きだそうで、「この人、たくさんだっこしてくれる」と見込まれたようです。次回からは常にだっこで炎天下を徘徊するはめに陥りました。滝のような汗と極度の筋肉痛との闘いでしたが、彼の絶大なる期待を裏切れず、骨が折れるまで抱き続けようというくらいの気でいたのが通じたのか急激に仲よしになれて、会いに行くと玄関で待っていてくれるようになりました。自宅に来られるようになり、１週間の外泊を終えて乳児院へ戻る時には「帰らなくていいよ。」と言いました。生後間もなくから３歳半になるまでを過ごし、大好きな職員さんやお友達がいるなれ親しんだその場所より、出会ってわずか２ヵ月の人のもとにいたいと言うのです。子供は本能で守ってくれる特定の大人と家庭を欲していることを実感しました。私にとっても、彼がかけがえのない存在になっていて、交流の期間は、お互いの気持ちを育む貴重な時間となりました。

こうして彼は我が家にやってきたわけですが、生活になじむまでは大変でした。かつて手の届くところに、触ってはいけないものなどほとんどなかったのですから、何でも珍しくて仕方がないわけです。あらゆる電化製品や照明のスイッチを壊れるほど押しまくりました。携帯電話を電子レンジして、電池が焦げて発火寸

前。包丁を使っている時や、油調理をしている時に、体当たり。階段で押す。お茶、食べ物、薬を座布団や絨毯に撒く。買い物では、商品を落とす、パッケージに穴をあける。叱ってもニコニコ笑っているばかり。食事は赤ちゃん返りして、全介助。さらに、24時間くっついて離れず、常に行く方へ先に立って移動し、とてもいらつきました。

こんな生活の中、毎晩主人に１日の出来事を報告すると、M君に反省点をこんこんと言い聞かせてくれ、同じ視点に立って共有しようとしてくれたのが、とてもありがたかったです。頼りになる里親仲間に恵まれて色々と相談にのってもらいました。近所の人が「少し休みなさいよ」と、時々預かってくれました。それでも追い詰められてしまい、先輩里親さんに電話で泣きついたこともありました。

夜、子供が眠ってしまって冷静になると、子供側だってどうしていいかわからずにあれこれやらかしているけれど、それは懸命に不安と闘いながら、小さな手を精一杯こちらへ伸ばして、つなぎとめようと頑張っているんだと思えてきて、不慣れな親で申し訳ないと反省する毎日でした。今、１年たってみると、相変わらずやんちゃでいたずら好きで、毎日大騒ぎだけれども、経験不足による行動や試し行動はほとんどなくなり、当初の悪戦苦闘が嘘のようで、言葉では言い尽くせないほどいとおしくて、家族になれたと思います。

施設の職員さんたちは本当に一生懸命頑張って、大切に子供たちを育ててくださっていると思います。M君も、職員さんをとても慕っていました。今でも「会いたい？」と聞くと「会いたい！」と答えます。それでも、帰りたいと言ったことはただの一度もありません。幾らかわいがってくれても、職員さんは時間で交代します。退職して会えなくなってしまうこともあります。特定の大人と24時間、365日を過ごすことで得られる安心感は、家庭でしか子供に与えることができないのだと、改めて実感しています。

私たちは本当にいい御縁をいただきました。思い浮かぶ顔はいつも笑顔で、この上ない安らぎを私にくれます。里親のわがままですが、できることなら成長していく姿を大人になるまで見せてほしいと願わずにいられません。こんなにもすばらしい縁をつないでくださった、児相の担当者さんを初め、里親仲間、家族や親兄弟、友達、近所の方、周りの人たちが温かい気持ちで支えてくださらなかったら乗り越えられなかったことを思い、心から感謝しています。

９　当たり前の家族

【実子】

私は現在、大学２年生の20歳で、私が２歳の時に両親が里親を始めました。我が家は現在、私と妹の２人の実子と６人の里子が一緒に生活しています。小学２年生が１人と、中学生が３人、高校生が２人ですが、私が２歳の時から、20人を超える、さまざまな年齢や性格、事情を持つ子たちで、家の中はいつもにぎわっていました。時にはやんちゃな３人兄弟が一遍に家に来たこともありましたし、14歳で出産をした里子が来たこともありました。長い間、我が家と関わりを持っている里子や、突然預かることになって３日ほどで出ていってしまう子もいました。私は物心つく前からそのような環境で育ってきたので、里子とともに暮らすことや、大人数で暮らすことがむしろ当たり前であるという感覚を持っているのです。正直なところ養育家庭で育った実子の立場からと言われても、十分な答えが出せるかどうか、私にとっては日常なのでわからないのです。

よく質問をいただくのは、血のつながっていない子供達と一緒に暮らすことについてどう思っているかということです。私はいつもそれが当たり前の感覚なので何も感じません、と答えてしまうのですけれども、確かにはたから見れば、血のつながっていない人と一緒に住むことも少ないでしょうし、ましてやその子たちが兄弟と呼ばれ、自分の両親をお父さん、お母さんと呼ぶことに違和感を感じるはずだと思われると思います。実際に、私も妹も小さいころはよく同い年くらいの里子とは衝突していましたし、妹は小さいころ、入ってきたばかりの里子が本当の子供のように自分の両親に対して甘えたりするのがすごく嫌で、いつも「あなたの本当の親は私の両親ではない！！」と思っていたと言っています。しかし、一緒に生活した時間が長くなってお互いに慣れてくると、子供なので適応能力があるということもあり、本当の家族のように親しくなってきて、そのような不快感や嫉妬というのはだんだんとなくなっていきます。つまり、私たちのように昔からこのような養育家庭で暮らしてきた子供にとっては、血のつながり云々ではなくて、一つ屋根の下で暮らすということが家族だと思っているので、その家族の中心を「お父さん」、「お母さん」と呼ぶのは普通のことですし、一緒に暮らしているのだから、兄弟、姉妹として暮らすことも普通のことだと思っています。

もちろん里子にはさまざまな性格や事情を持つ子たちがいて、必ずしも仲のよい兄弟となれるとは限りません。やんちゃな子もいれば気の合わない子も当然いると思います。特に小さいころは、よく喧嘩をしましたし、１人のお母さん、お父さんを５～６人という大兄弟でとり合うわけですから、もちろん不満もありました。しかし、そうとは言っても子供ですから、遊ぶ時は仲よく遊んでいますし、

喧嘩する時は喧嘩をする。むしろ普通の子供と何ら変わりはないのかなと思っています。兄弟の多い家庭で育ったという印象が私の中ではあります。

それでも、養育家庭ならではと思う不満を感じたのは、実親と比較的つながりのある里子とのことで、例えばたまたま実親と連絡がとれて会ったりできる里子は、クリスマスプレゼントが実親の分多かったりだとか、実のお父さんと出かけておもちゃをいっぱい買ってもらったという自慢話を聞くと「親が２組もいるなんてずるいな」と感じたこともありました。私たち実子は、自分の親を半分里子にとられているようなものなのに、里子は２倍だなんて、２分の１と２倍なんて不平等だなんて屁理屈をこねたこともあったのですけれども、今考えてみれば他愛もないことですし、実際にそのように感じる場面というのは本当に少なかったのです。今になって考えると、そのような不平等さを感じたというのは、逆に普段両親が私たち実子と里子を同じように平等に育ててくれているからだと思います。里子と実子が同じものを食べ、同じ空間で過ごし、同じように両親から褒められたり、怒られたりするというのは当然なのですけれども、小さい子のかわいがり方ですとか、細かいところまで本当に同じなのです。例えば、今家にいる８歳の男の子に対する父の遊び方とか、あやし方までが全く一緒なのです。私の父は、子供に対してすごくしつこくて、怒られても、泣きわめかれても、さらにしつこくする可愛がり方をしています。私も妹もそんな目に散々遭わされて、今はその子がターゲットになっています。そういうことは、本当に子供としてかわいがっていないとできないことだとは思うのです。そこまでちゃんと平等に扱っているというか、本人たちには自覚はないと思うのですが、平等に育てられているという感覚がするのはやはりいいことだな、と私は今思っています。私自身もそのように里子と一緒に育ってきたので、里子とは普通の兄弟のような関係を築けてきたとは思っています。小さいころは同年代の子とは喧嘩をしましたけれど、いつも一緒に遊んでいて、年上の里子に対しては、お兄ちゃん、お姉ちゃんのように慕って、いつもくっついて遊んでもらったりしていました。

今、私が成長して大学生くらいになってからは、余り兄弟喧嘩をすることもなくなったのですが、今度は同年代の子供たちと、兄弟というか友達のような関係を築けていると思います。昔、ものすごく仲が悪かった里子とは、今では誕生日を祝い合ったり、一緒に買い物に出かけたりするほどよい仲になっていたりします。また、中学生や高校生くらいになってからうちに来た子たちというのは、小さい子よりはすぐには溶け込みにくくて、本当の兄弟のようにとか、本当のお父さん、お母さんだとは本人たちもやはり思っていないけれども、それでも仲のよい友達のような感覚で一緒に遊んだりとか、会話をしたり、相談したりというこ

とで、いつも盛り上がっています。このように兄弟のような友達のような感覚で里子と接しているのですが、私にとってはこれらが家族というもので、血のつながり云々ではなくて、同じ屋根の下で暮らして、同じ時間を共有して同じように話す、笑い合うというのが家族だと思っています。そして、もちろん面倒でうるさいこともあるのですが、そういう家族がたくさんいるということは、にぎやかで楽しいことで、それこそがやはり家族なのだなと私は思っています。

【里母】

里親といえば、実子を育て上げた人が、もっと子育てをしようとか、お子さんがいらっしゃらない御夫婦が子育てをしたいということでなられる方が多いと思うのですが、うちは実子が２歳と０歳の時に何かしたいなと思い、今私ができているのは子育てだし、子育てをしながらさらに何かほかのことができるかというと、とてもできそうにもないので、じゃあ子育てをしたいということで、養育家庭を選びました。実子がいながら大変ですねとか、実子がいながら里子と分け隔てなく育てるのは大変ではないですかと、よく聞かれるのですが、我が家の場合は、私自身がとても子供に過保護といいますか、構いたくって仕方がなくて、ずっと口出しをしてしまっているのです。学校ではPTAをやり、行事があれば子供よりも親が先に行くくらいでやってきています。あまり過干渉で育ててしまうとお互いよくないので、里親をやっているからこそ、たくさんの子供達との生活の中で分散ができていると思います。だから今、自立して子供達が元気に育ってくれたのかな、何とか社会でやってくれているかな、なんて思うことができます。

実子に対しては、里親をやることで自分のことだけではなくて、他人のことを自分のことのように考えられるような娘たちに育てたいという思いですとか、世の中にはいろいろな事情の方がいらっしゃるので、そういう方たちと、どのようにかかわれるかということをやはり知って欲しいし、関わっていって欲しいという思いがあります。やはり実子がかわいそうと思われる方も多いし、実子が小さい時などは、里子たちとトラブルになって、喧嘩して負けていることもあったし、噛まれちゃったりとか、実子は悪くないのに子供たち全員を怒らなければいけなかったりとか、実子もかわいそうだなということもありました。

もっともっと里親が増えないかなと思って、いろいろなところでお話をさせていただいているし、全く隠すこともなく、仲よくなった人にはうちは養育家庭という話をします。これから何かしたいと思っていらっしゃる方や、子育てがこの人うまいなという人に出会われましたら、ぜひ里親制度というものがあるということを広めていただけたらなと思います。

10　実子という一番のパートナーと共に

【里母】

私が養育家庭を知ったのは「家庭に恵まれない子供達の為に、あなたも里親になりませんか」というポスターを見た時からです。その頃私には子供が５人おり、私には無理だと思いながらそのポスターに心が惹かれていました。

10年後に長女が養護施設に勤め「お母さん、養育家庭を家でもやろうよ。経済的なことは国でちゃんとしてくれるっていうから大丈夫だよ」と言うんです。私は10年前に見たポスターを思い出しました。主人や子供達やおばあちゃんも賛成してくれ、養育家庭に登録し、現在は５人の子供を預かっていますが、登録後15年の間に全部で11人の子供を預かりました。よく子供を作ると言いますが、私は与えられるものだと強く思っています。家庭も与えられるものだと思っているので、私達は家庭に恵まれない子供のために家庭を提供していると考えています。

私達の所に初めて来たのは３歳の女の子Ａちゃんでした。Ａちゃんは１週間位泣きませんでした。転んでも何があっても泣かなくて、私達は泣かない子だねと言って見守っていたのですが、１週間程経つと一番なついていた長女が出掛ける時に「行かないで」と言って大泣きしたのです。泣いている子供のそばでおかしなことだと思いますが、私達はそれを見て、泣いた、泣いたと言って喜びました。それからはよく泣いていました。１年位風邪も引かなかったのですが、１年経ってから風邪を引き熱も出しました。家に慣れていたように見えていても、緊張で風邪も引けず、熱も出せなかったのだと思いました。。赤ちゃん返りもありました。間もなく幼稚園に行くようになりましたが、登園初日、Ａちゃんが初めて会った他の子のお母さんのひざの上にちょこんと乗ってしまったのです。私もそのお母さんもびっくりし、その時これが愛着障害というのかなと思いました。その言葉を研修で聞いていましたが、本当に誰にでも飛びついて行ったりしてしまうのです。又、二番目に来たＢちゃんが知らないおじさんに抱きついていた、と先生から知らされたこともありました。本当にショックで、その時は家の子供達も皆、Ｂちゃんに「そんなことしたら誘拐されちゃうよ」「怖いんだよ」「誰にでも抱きついたりしちゃいけないんだよ」と一生懸命話していました。

最近、愛着障害という言葉の「愛着」という言葉が「アタッチメント」という言葉で、元々の意味はくっつくという意味なのだと話をしてくださった心理の先生がいらっしゃいました。家も１歳になる孫がいますが、ある時期にお母さんに本当にくっつくのです。お母さんがトイレに行くとトイレまで行って待っているとか、そういう時期に特定の人にくっつくことが出来ないでいると、誰にでもべたべたしてしまうことがあるそうです。ＡちゃんとＢちゃんは家にいて生活して

行くうちに誰にでもくっつくことも段々減り、なくなっていきました。

私が一番願うのは、私達の家庭がその子の居場所になって欲しいということです。Ｂちゃんのことですが、２分の１成人式で子供の望む小さい頃の思い出をお母さんが書き、それを子供が発表したことがありました。Ｂちゃんは自分が養護施設にいたとか、自分の名前は渡辺だけど違う名前があるんだとか、そういうことを平気で言う子だったので、私はむしろはっきり本当のことを知らせた方がいいと思いました。Ｂちゃんはお父さんやお母さんが誰かわからないけど、でも今はここがお家で私達が本当のお父さんとお母さんなのよということをはっきり書いてあげました。その頃Ｂちゃんは男の子達にいじめられたりもしていたのですが、その手紙を読んだ時に、その男の子達が感想で「渡辺って大変だったんだね」「苦労したんだね」等と書いてくれていじめもなくなっていったみたいです。

その後短期で預かった中学生のＣ君がお母さんやお父さんと連絡をとっているのを見てＡちゃんが「ずるい」と言い出したことがありました。そばで聞いていた中学生になっていたＢちゃんが「Ａちゃん、それは違うよ。Ｃ君は、お父さんやお母さんがすぐ近くにいるのに一緒に住めないんだよ。Ａちゃんや私はもうここがお家で、お父さんとお母さんが本当のお父さんとお母さんなんだから」と言って慰めていたのです。私はＢちゃんはここが自分の居場所だ自分の家だと思って喜んでくれ、しかも妹に一生懸命言ってくれたことが本当に嬉しかったです。

家は５人の実子が今はもう独立していますが、里子達を預かったり、一緒に遊びに連れて行ったり、本当に協力してくれて助かっています。２番目の娘が里親として幼稚園の子供をお預かりしているのですが、その子や１歳になる孫も家の里子達がとても可愛がってくれるのを見て本当にいいなと思います。このように家がその子達の家庭となっていることが本当に素晴らしいと思います。長女は養護施設に勤めて、その後社会人入学して今は大学院生です。これから実子としての立場で話してくれるので、選手交代します。

【実子】

両親が里親として最初の子供を受託したのは私が23歳の時で、それからずっとすごく楽しい思いをさせてもらいました。私の実子としての感想は楽しかった、可愛かったとか、そう言うことだけですが、里親家庭の実子というと里子に手がかかって我慢を強いられたり、納得がいかないことが多かったり、両親が大変なのを目の当たりにしながら、その中で色々な葛藤を抱えて育ってきたことも多いと伺っています。最近はそうした当事者が、里親家庭の実子の存在も知って欲しいと声を上げたり、徐々に里親家庭の実子についての研究も行われ始めています。

里親家庭の実子にはそういう葛藤を抱えて育つ人もいれば、私のように全く葛

藤を抱えない人間もいるのは、何でなんだろうとずっと思っていましたが、最近、そういう実子の立場の子と話をしたり、実子の研修会に出た中で少し気づいたことがあるので、今日はそれだけお話できたらなと思います。

もちろん私が気づいたことが全てではないとは思うのですが、一番は、里親である両親が委託される子供について実子に余り話さないのかなと気づいたのです。私は保育士の資格を取り、最初の勤務先は児童養護施設でした。退職した理由の１つに子供は家庭で育つといいなと思ったことです。退職時にその話をして家で里親をやろうということになったので、そういう経緯もあって、子供が委託される両親は必ず私に話をしてくれます。他の実子の兄弟たちにも同じように話をして、受けてもいいかと相談してくれます。そうすると、委託されてきた子供に何か問題があったり、問題を起こした場合にも、私たち子供達に相談をし、特に私の場合は社会的養護を受ける子供について勉強していたこともあって、両親は同等というよりも、むしろ、児童養護の世界に自分たちよりも先に入った先輩として私に意見を求めてくれているように私は感じています。

家は実子の兄弟達は特にお互い余り干渉しない感じですが、実家に来た子供のことになると、すごく可愛いがっているので、その時だけは団結して話し合ったり、今回は僕がその子に話をしてみようかとか、こういうことを言ってみたらいいんじゃないか等と相談します。そういう状況は皆が実家を離れてからも変わりませんし、両親は新しく子供が委託される時には必ずまず家に居る里子に相談し、その後、離れている私達兄弟にも話をするという手順を踏んでいると思います。

里親家庭の実子の研修に行って海外の事情等を伺うと、実子に委託されてくる子供のことを話すことが大事だと書いてあり、年齢に合わせて実子の為の社会的養護を理解するワークブックを作る取り組みがあることも聞きます。自分の家に何が起こっているのか、自分自身の身に一体何が起こっているのかを、実子自身が知る必要があるのかなと。又、既に委託されている子供達自身が知る必要があると感じています。同じ家に暮らす、いわゆるチームの一員として尊重し、こういう子が来るんだよという話をしてあげることがすごく大事なのだと思います。

家の場合は、里親をやっていくことに関してかなりラッキーだと私は思っています。大きな兄弟達が５人もいて子供のことを可愛いがって、親も相談もしやすい環境にあるし、近所の人やお魚屋さんやパン屋さん等協力的な人もいるのも、里親をやりやすい環境だと思います。全部の話をすることは色々な事情があって出来ませんが、いる子供達のことに関してそれなりにオープンにしていくのが大事で、家の親がそういう物を作り上げて来たこともあるかも知れないし、それを作りやすい環境にあったことがやっぱりすごくラッキーだったと思っています。

11　里子としての私

【元里子】

私は28歳になります。里親さん宅に来たのは３歳のときでした。そのときの記憶は全くありませんが、抱っこをせがむことは少なく、また、小さく生まれてきたためか足腰が弱く、必ず散歩に行っていたそうです。幼稚園に入り、運動会等になると、写真は母が、ビデオは父が撮っていました。小学校低学年までは、私は運動会や入学式など大勢の人が集まるとき、里親さんの姿が見えないと不安になり、よくきょろきょろと探していたのを思い出します。そのときは必ず手を振って、居場所を教えてくれました。小学校３年生のときに６歳離れた里子が来ました。その女の子も、里親宅で高校・短大に進み、今は児童養護施設で働いています。昔は一緒に遊び、よくけんかもしましたが、今では一緒に買い物に行ったりと、一番仲がいいかもしれません。また、お互いに言いたいことを言い合える仲でもあり、かわいい妹でもあります。

里親さんは夏休みや冬休みなど、いろいろなところに連れていってくれました。そのときの思い出は今でも思いだします。ただ、楽しかった思い出だけではありません。里親宅では年齢に合わせたお手伝いが毎日ありました。ただ、毎日掃除ばかりをしていたわけではなく、きちんとやっていれば、例えばドラえもんやサザエさんスペシャルがあれば、普段は御飯を食べながら見ることは禁止ですが、そのときだけは御飯を食べながらでも見せてくれていました。そういうのがあったからこそ、お手伝いが頑張れたのかもしれません。今、ひとり暮らしをしていますが、教えてもらったことがとても役に立っています。今となっては、里親さんに感謝しています。

私は今、介護福祉士として日野市の特養で働き始めて７年目に入りました。里親宅では短大や専門学校等の高校以上の学校に通いたいのであれば、奨学金を借りたりアルバイト等をしながら、自分で学費を稼ぎ、足りなければ里親さんからお金を借りるという形をとっています。私も専門学校に行く際、授業料と入学金は里親さんから前借りという形でお金を借り、働いてから全額返済しました。奨学金も育英会のほかに、里親さんが見つけてきてくれた奨学金の２つと、放課後のアルバイトで２年間過ごしました。授業料だけではなく、交通費や携帯代などもバイト代から出していました。２年生のときにはバス代節約のため、駅から学校まで片道30分かかる距離を毎日歩いていました。毎日１時間歩くことによって、足腰が鍛えられたのかもしれません。バイトを通して働く姿勢と人との接し方などを学ぶことができました。

我が家はファミリーホームで、現在３人の里子がいます。高校３年と１年の女

の子、中学１年生の男の子です。中学生の子だけが２歳のときに来ましたが、高校生の女の子２人はある程度大きくなってから来ました。中学生の子は初めての男の子でした。その男の子がいたおかげで、子育てとは何か、子供の対応の仕方や怒り方などを学ぶことがでました。また、我が家では母が怒り役、父が慰め役でした。母に怒られて少し時間を置くと、父がそばに来て、子供たちの言い分を聞いてくれていました。怒られているときは何も言えませんでしたが、父に優しく聞かれると、思っていることを素直に話せました。後になって知ったのですが、それは母が父に頼んでしてもらっていたそうです。両方怒ってしまうと、子供は何もできなくなってしまう。怒られた後、話を聞いてくれる人がいれば、思っていることを全部話すことができ、反省する気持ちにもなり、間違っていれば諭してくれて、謝り方も教えれば素直に謝ることができるという考えからだそうです。小さいときは、怒り終わったら必ず抱きしめてくれていました。これは怒った後、嫌いにはなっていないんだよと教えるためだそうです。私自身もそうでしたが、怒られると嫌われたのではないかと不安になってしまいますが、抱きしめられることによって許してもらえたと安心することができていました。

私自身が里子だと知ったのは、小学校１年生のときです。小学校１年生のときに「何で私に２つの名前があるの？」という質問をしたときに、里親さんが里子であることを説明してくれたらしいのですが、残念ながら覚えていません。幼稚園のときから里親名を名乗り、病院では本名で呼ばれていたのが不思議だったのかもしれません。里子だと意識し始めたのは高校受験の際、里親さんから「本名と里親名、どっちで通う？」と聞かれたときからです。私はずっと里親名で通うつもりでいましたので、びっくりしたのを覚えています。高校、専門学校と里親名で通い、介護福祉士の資格を取る２０才のときに、実の親が20年間見つからないこととともあり裁判所で氏変更をしました。裁判所の方は、二度と元の氏に戻れないとの説明をされましたが、私には迷いはありませんでした。手続が終わり正式に里親性になれたときはうれしかったです。介護福祉士の資格証明書には、きちんと現在の名前が入っています。

高校生ぐらいのときから、里親さんからは「里子でいることは決して恥ずかしいことではない。何か悪いことをしたわけではない。親の事情なのだから、こそこそしているほうがみっともない」と繰り返し言われましたが、どうしても里子だと周囲にばれてしまうのが怖く、友達にも、職場の人にも話せないでいます。誰かに聞かれれば話しますが、自らは話そうとは思いません。気持ちのどこかに壁をつくってしまっているのかもしれません。いつかその壁が取れればいいなとは思います。焦らずゆっくりと、自分自身に向き合っていきたいと思っています。

12　子供と一緒に成長

【里母】

私たちは里親になって１年と８か月余りの本当に新米の里親です。結婚して１２年なかなか子供を授からない中、７年前にインターネット上で里親という言葉に出会ったのですが、夫婦ともにフルタイムで働いており、なかなか登録まで進めませんでした。その後里子さんの大変痛ましい悲しい事件をテレビのニュースで知り、私たち夫婦のところだったらこんなことにはならなかったかもしれないという考えから、本気で里親になろうと決心しました。

登録後２歳ヵ月の男の子の紹介を受けることができました。子供の暮らす乳児院で初めて会ったとき、期待や不安がいろいろ入り混じり心臓はばくばくしていましたが、子供は全く私たちには見向きもせず、とてもがっかりして帰ったのを覚えています。私一人で週２回、夫婦で週１回乳児院を訪問するという計画で交流がスタートしました。交流中一緒に公園に行ったとき、先生とは手を繋ぐのですが、私たちとはなかなか手を繋いでくれず、へこんで帰ることも多かったです。乳児院の先生から「今度はお父さん、お母さんという呼び名にしましょうか」と言われ、それがうれしいやらはずかしいやらで、そのときの気持ちは今でも忘れることができません。

長期の外泊が始まり、会社を２か月休んで子育てに奮闘しました。この時期、子ども家庭支援センターのこども広場を利用しました。広場で子供を遊ばせながら、職員さんに相談相手になっていただくこともありました。本当に助かりましたし感謝しています。

子供が家に来たばかりのことをお話します。寝つきが悪く毎晩11時過ぎまで起きて遊び、寝ついたかと思うとぐずって泣き出し、だっこしてバルコニーに出てあやして、寝ついてもまた１時間すると起きるという繰り返しで、睡眠時間は３、４時間でした。毎日だっこをしていたため、腱鞘炎になり今でもその腱鞘炎は治っていません。また、自分の思うとおりに行かないと、手に持っている電車や車のおもちゃを投げつけたり、お尻や腕にかみついてくるので思わず叫び声を上げてしまうこともありました。蛇口を開けて水をずっと出しっ放しにするので、水道局から漏水していませんかという電話がある程でした。焼きのりの小包装を気が済むまで食べ続けたり、冷蔵庫からニンジンやピーマンを出してぽりぽりとかじったりすることもありました。目の前にある食べ物はを全て食べてしまうので、見えないところに隠すようになりました。家の中じゅうの引き出しを全部開け、興味があるものは全て出してしまうので、危ないものは手の届かないところに置くようになりました。

ここでちょうど委託を受けて３週間位のとても苦しかった時期の１日の日記を読みます。

『朝６時15分に起床。泣いて起こされ、散歩あっち行くと言い、泣いては床に唾を吐き、泣く泣く泣く。即着がえをして、ベビーカーで駅方面へ、朝７時前にお散歩に出かけた。眠いのか子供は途中の道で大の字になって泣き、一体何がしたいのかわからない。約40分ベビーカーの中ですやすや寝ていた。今はぐっすり。子供が眠っている間に考える。また、おむつもかえてくれないんじゃないかとか、どうしたらいいのかわからない。主人と何とかここを切り抜けようと話す。私たちの意志は固かったが、時々心が折れそうになってしまう。泣いたときもある。自分の子だったら叱ることもできるところも、子供の今の状態を考えると、強く叱ってもいいのか迷うことが多い。最近はおむつもかえず、服も着ない。どうしてか。そう、さっきも顔をひっかかれ次々傷がふえていく。不意に手が出てくるのでほぼ避けられない。ようやく朝10時ころ、かわいい笑顔で布団を飛び出してくる子供は本当にかわいい。それに支えられてきょうも頑張る。お出かけの帰り道、ベビーカーで寝てしまい、私たちも疲れて夜９時半には寝る。が、深夜２時15分に起こされ、あっち行くが始まり、１時間バルコニーでだっこ。なかなか寝ついてはくれず、３時15分にやっと寝てくれた。』

最近の様子はというと、好き嫌いなくよく食べ、本当に健康です。週末に熱が出ても強靭な復活力があり、週明けには元気に保育園に通ってくれます。４歳になり随分お兄ちゃんになったと思います。子供の日々の成長から、私たちは語り尽くせないくらいのいろいろなものをもらい、たくさんの思い出をもらいました。子供と一緒に私たちも日々成長をしているように思います。子供が大人になって人に迷惑をかけないように、しっかりと自分で生きていけるように、ときには厳しくときには寄り添って、健康に成長してほしいと、主人といつも考えています。このめぐり会いも運命だとも思いますし、縁だとも思っています。

今、里親としてこの場に立たせていただくくらいちょっと自信がついたのは、私たちにかかわっていただいた児童相談所、乳児院、子ども家庭支援センターの方々や、研修などで知り合った里親さんのおかげと心から感謝しております。ふだんは余り口に出して言うことはないのですけれども、育児に全面的に協力してもらっています主人には、本当に感謝しております。

最後になりますが、私たちはフルタイムで働いていても、こんな夫婦でも何とか協力してやっております。これからたくさんの里親さんに登録していただくために、私たちが少しでもお役に立てたら、参考の夫婦になれたらいいのではないかなと思っております。

13　里親さんから教えてもらったこと

【元里子】

僕は、高校３年間のうち、高校１年生の４月から高校３年生の６月まで里子として生活しました。里親さんの家の印象は、「自分の家と違う」ということと「面倒くさそう」ということでした。里親さんの家では、帰ってきたら「おかえり」と言われ「あれ、何か違うな」と感じました。もう一つ覚えているのは、最初に食べた御飯がすごくおいしかったことです。一時保護所では給食の延長線みたいなご飯でしたからしばらく手作りのご飯を食べていなかったのです。一時保護所では、ラーメンが出るのがうれしかったです。最初の食事も手巻き寿司で、意外と豪華なのです。豪華なだけで別においしくはないな、コンビニで買ったらこんな感じかなというものでした。里親さんの家の食事は、別に味はこれと言ってすごくうまいという感じではないのですが、「おばあちゃんちの料理」。物理的に熱い、温かいではなくて、人の温かみを感じるような料理。半年ぶりに食べた手づくりのご飯はおいしくておいしくて。それから毎日、たくさん食べていました。とにかくご飯がおいしいというのがすごくありがたいと思えた瞬間でした。

僕は、里親さんの家に来て最初から門限を破りまくりました。門限は19時。家の雰囲気を引きずってしまい、自分の家に帰るのが、親とどうしても接触したくないから、何もなくても時間をどんどん遅らせていたのです。里親さんの家に来てからもそんな感覚を引きずってしまって、思い出したように帰るから門限を過ぎてしまう。１時間以上過ぎるようなことはなかったですが、破って怒られるのです。里父さんに「何で遅れた」と言われて「すみません」と言い、適当に「電車が遅れた」とか「先生に呼びとめられて」とか言い訳をひたすら並べて、別に心の中では何とも思っていませんでした。どうせ里親なんて一時保護所と同じで一時の関係で家に戻るからどうでもいいと思っていました。実親が俺に価値がないと言っていたのを、「門限にも守る価値がない」と俺が使っていたわけです。ただ、怒られるのは嫌だったし、家での感覚も抜けていったので門限を破ることも少しずつは減っていきました。

夏休みに友達と東京サマーランドに誘われたので里親さんにお願いして門限を20時まで延ばしてもらいました。しかし、気がついたらもう21時、22時でした。一応まずいから里父さんへ電話をしました。本気で怒っている声でした。でも結局帰ったのは翌日の朝です。朝になって申し訳なさそうな顔をして「すみません」と言っておけば大丈夫だろうと思っていました。でも実際は、全然怒られませんでした。「怒られると思ったか」と聞かれて「怒られると思っていました」と言ったら「何で怒ると思う」と聞かれて、僕が答えたのが「門限を守らないから。

里親で、東京都の管轄で、その職員の人に指導されるからじゃない」と言いました。正直それ以外の理由が全く思い浮かびませんでした。その後、里父から答えを教えてもらいました。「里母さんがすごく心配したから。」「何かあったらどうしようと思ったから。」それが怒る理由。心配だからという理由です。加えていつもの門限破りの話になり「毎回毎回19時過ぎたらどうしているのだろうと言って、何かあったのかなといつも心配している。それでも門限を破り続けるお前が許せない。」と言われたのです。僕はそれまでも実親に怒られることには慣れていましたが、そのときに「あれ、違う。この人たち本当に俺のことを心配してくれている」と思いました。それが気持ちの変わり目だったように思います。まさに家庭というものを知り始めたところだったと思います。それ以降「心配させないようにさっさと帰ってやろう」という気持ちに変わりました。生徒会や体育祭を毎日頑張り、家に帰って温かいご飯が待っていて「お風呂沸かしてあるよ」「はーい」と言って、そんな当たり前の日常というのを里親さんの家で過ごしていきました。

里親さんのところを離れた今となって感じるのは、家に帰って「どうだった」とか、「ただいま」「おかえり」「行ってらっしゃい」「行ってきます」という言葉があるのとないのとでは大きく違うということです。里親さんの家に行くまでは、「ただいま」「おかえり」は「絶対にやらなければいけないこと」でした。だからやるというものだったけれど、里親さんの家に行ってからは、送り出してくれる意味や迎えてくれる意味、普通の家庭の大切さを教えてもらいました。たまに里親さんのところに帰って、今月もちょうど帰っていたのです。その度に「おかえり」と言ってくれます。僕にとってはここが実家みたいなものなのかな、僕にも帰れる場所があるんだなと感じます。実際に本当の意味で帰れる場所ではなくて、気持ち的に帰ったら迎えてくれる場所、それがすごくありがたいことでした。本当の家族ではないけれども、家族と思える人がいて、本当に良かったなと思いました。無意識のうちに色々な家族というもの、里親さんに人を思える心をもらったのかなと思います。里父さんはよく「お前はそういう運命だったからここに来たんだよ」と言うのですけれども、こういう出会いが良かったなと感じています。同時に里親さんに色々なことをしてもらったなと。どうしても気持ちの表現をするのが苦手なので、実際に手伝いなどをしてあげることしかできないのですけれども、なかなか伝えられないです。

僕は今、教員を目指しています。それは里親さんの家にいるときから決めていて、里親さんも応援してくれています。それに応えるのが一番最初にできる恩返しかなと考えています。

14　私の里親人生

【里親】

私は、13人のお子さんと暮らしてまいりました。一時保護のお子さんを含めると大体50人ぐらいのお子さんをお預かりしてまいりました。無我夢中でしたので人数を聞いて振り返ってみると、そんなにたくさんいたのかなと今、思っております。私ども夫婦には３人実子がおります。実子を３人授かりましたので、主人とその恩返しをさせていただこうと最低３人は親のいない、本当に困っている子供を育てさせてもらいたいと思ったことが里親を始めるきっかけです。

最初にお預かりしたお子さんのＡちゃんは、幼稚園を卒園して間もなく来た女の子でした。小学校に入ると、Ａちゃんの友達のお母さんから「毎日アイスをごちそうになって本当にすみません。ありがとう。」というお礼の電話が入りました。私はびっくりしました。アイスをあげたことがなかったからです。私が公園まで行ってみると子供たちが５、６人いてＡちゃんがアイスを配っていました。私が「アイスどうしたの？」と聞くと、そのうちの１人の子が公園の近くにあるコンビニを指差しました。コンビニの方から話を聞くと「明日はもう警察に行こうかと思っていました」と言われました。Ａちゃんは、アイスをくすねて友達に配っていたのです。私は謝り、今までのアイス代の支払いをして帰ってきました。我が家に来てまだ間もなかったので深くは追及しませんでした。他にも家族全員分の大きなオムレツを勝手に食べてしまったり箪笥を開けると新しい下着の上に大便と小便が重なっていたりしたこともありました。そのようなことが１カ月ぐらい続きました。こういうことをしたら怒られるかな、という愛情の試し行動だったと思います。どうしたら直るかなと思い見守りました。いつも私は３ヶ月くらいあまり注意しません。どんなふうにその子が生活をしてきたのかな、どういう環境、生い立ちにいたのかなと思って、言いたい気持ちをこらえて見守っています。でも、そんなことが何回も続き、私もだんだん心にストレスがたまっていました。ある日、町内の消防訓練にＡちゃんと一緒に行き２人で手をつないで走りました。Ａちゃんは、とても強い力で私の手を握ってきました。それまでは、ふっと視線をそらせることが多かったＡちゃんですが、本当にすごく強い力で握ってきてくれました。「この握ってくれる力がＡちゃんの本当の気持ちなんだ」というふうに伝わってきて「この子の手を離さないでいこう」と思いました。それからはどこに行くにもどんなことでも手をつなぐようにしました。

現在は、夜間中学に通っている女の子をお預かりしています。我が家に来て２年になります。彼女は事情があり小学校も中学校も通えませんでしたので彼女は、テレビのドラマやアニメを見て人とのコミュニケーションや生活のあり様を学ん

できたようです。学校に行っても現実の生活の中では相手の距離感とか空気が読めず、度々戸惑うことが多いようです。学校に行けなかったので友達がいなくて孤独だったということ、両親から受けた精神的な苦痛、叩かれたという恐怖感、そういう思いを私に向かって、長いときは３時間から５時間、同じ話を半年ほど、自分の心を吐き出すように彼女は、話し続けていました。私は、彼女のために時間をとり一生懸命話を聞かせてもらいました。話の最後にいつも「こんな私が生きてていいんですか、私は本当にここに存在してていいんですか」とずっと泣きながら言っていました。私は黙って聞いて、背中をさすりながら抱きしめ「ここに来てくれてありがとう、一緒に幸せになろうね」と何回も繰り返していました。長い時間でしたが、彼女が心の中を、今まで味わってきた15年の苦しみを吐き出している時間だと思い、それを私が受け止めさせてもらうことが、次のステップにつながると感じていました。

子供たちの様子から、半年ぐらい過ぎると「ここが自分の居場所なんだな」ということを感じてくれるようになると思います。朝起きられなかったお子さんも半年過ぎるとだんだん起きられるようになり、朝、昼、夕の３度の御飯をきちんと食べられるようになります。朝起きられて食べられるようになると、自分を見つめる気持ち、自分と向かい合う気持ちというのが湧いてくるようです。こうした普通の生活をするということが、私たち人間にとってすごく大切なことだと改めて感じています。里親をさせていただいて15年以上が経ちました。最初は子供たちに私のペースや価値観を押し付けて思いっきり反発されたり無視されたりということがありました。その度に私なんか里親に向いてないんじゃないか、こんな大人でいいのかと何度も落ち込みました。でも、私もだんだんそうして、いろんなお子さんの生きてきた、その子たちが持っている価値観というか人生の体験と向き合っている中で、ふと思ったんです。私自身もだれかから見たら本当に底抜けの穴だらけの人間でもあるし、たくさんの人たちのつながりの中でそれぞれのびのびとこうして生かしていただいているじゃないか。だから本当に、ここに来てくれる子供たちも、今まで生きてきた環境の中で精一杯生きてきたんだから、何があってもいいじゃない。今、ここにその子たちが生きていてくれて、それでいいじゃない。ありのままを受け入れながら、私が伝えさせてもらえることは伝えていくと思えるようにだんだんなってきました。子供たちに出会えたことで今までになかった自分の心の世界を広げてもらい、大きく伸ばしてもらっていると感謝しています。そしてそんな人生に出会わせてくれた主人や今まで身近で私をサポートしてくれている３人の子供たち、周りの方に支えていただいて、今の私がこうしているんだなということも感じている「感謝感謝の里親人生」です。

15　主たる養育者、里父

【里父】

里親登録をして２年。子供が来て10か月という新米里親です。

子供たちの学校で養育家庭のパンフレットが配られ、体験発表会をやるというので、３年前の秋にこの会場に聞きに来たことが里親になるきっかけとなりました。認定前研修と登録後研修で学んだのは、里親制度は子供のための制度であるということをきちんと自覚してくださいということでした。

私は、いつでも里子を迎えられるように、いつでも仕事は控えられるように勤務スタイルを変えて、里子を待つ状況をつくりました。里子が紹介されるのを待ちながら、毎月定例で開催されている里親サロンへも参加してきました。

そうして、ようやく今年の２月、乳児院での面会交流がスタートしたのです。１時間の面会から始まって、それが半日になり、一日になっていくという形で、全部で15回ほど私の場合は面会交流を重ねました。この段階では、乳児院には直接子供にかかわる男性がいないということで、どうなるかなという思いがあったのですが、交流は主たる養育者である私（里父）が主に里子と接触し、時間を重ねていきました。ここはそんなに抵抗なく進めたかなと思っています。

初めは１つの部屋の中で、なかなか距離が縮まらないジレンマがあったりしたのですが、自分の子供も交えて、一緒に過ごしてみようとやってみたら、その場で仲よくなって、公園へ行っても遊ばなかった里子がうちの子供と一緒だと、楽しそうに遊んでいて、子供同士の力は強いものだと、改めて感じました。

うちに初めてきた時のエピソードとしては、乳児院ではなかなかできたての熱い食べ物は、安全上、つくってしばらく置いてから出すと思うのですが、食べたことがないということで、できたての食べ物をすぐ口に入れて、あちちっとなったりするようなことがあって、それはふうふうしてからだよと話をして、それがわかるようになるまでしばらくかかりました。あとは、お風呂です。乳児院での生活では、保育士さんは服を着て、数人の子供を家庭の風呂よりは少し大きいお風呂に入れていたので、びっくりさせてはいけないということで、ここでもお兄ちゃんたちに活躍してもらいまして、そこからなれていった状況があります。

体験発表会で初めて里親の話を聞いてから２年近くたった平成25年５月に、里子の委託措置が決定されました。我が家に来てからまず始めたのが、身近な周囲への紹介です。まずは、御近所であったり、自分の子供の学校関係、友達がいっぱい遊びに来ては「この子、誰？」とみんな聞きに来るので、一人一人に「うちに一緒に住むようになった子だよ」と話してきました。

まずは、一緒に生活することになれていくということで、初めの１カ月はすご

く緊張感が続きました。やはり自分の子ではないということで、一緒に夜、寝ていても、大丈夫かなとはっと目が覚める。乳児院の生活リズムと家庭での生活リズムと違ってますので、そこをだんだんと家のリズムに合わせていくことに時間をかけました。うちに来てからは、午前中は私（里父）と公園めぐりや児童館に行ったりして、お昼御飯を食べた後、午後、お昼寝をして、夕方は一緒に夕飯の食材の買い物に行ったりしてという過ごし方をしてきました。

あと、今も悩んでいるのが、本人の甘えをどこまで許容するかということとしつけのバランスにすごく悩んでいるところがあります。うちの場合は、私がメインでかかわっているので、私への独占と甘えが強く、いないほうが食事もよく食べたり、よく歩いたり、私がいると抱っこ、抱っこで全然歩かなかったりというバランスのとり方がすごく難しいというのがありました。

そうこうしているうちに、私も職場のほうで人がいなくなった関係で、どうしても行かなければいけなくなってきた事情と、一時保育だけではなかなか対応できなくなってきたので、児童相談所にも相談しながら、探してもらって、駅近くにある認可外保育園の利用を始めました。保育園では、何でもできる子だそうです。自分よりも小さい子の面倒をよく見ているということです。預けてみて思ったのが、うちの中で見ていて大変だなと思っていたことが、保育園に行くとやれていたりすることがあるということで、里親だけでは見えないところが、ほかの社会資源を使うことによって、子供のいろいろな面が見えてきたというのは、すごくいいなと思っています。

家族の変化は、４人から５人家族へということで、気持ちの準備はしていました。実子の変化ということでは、小学校６年生の兄が、こっちが考えた以上に面倒を見てくれています。その分、弟に対して非常に厳しく、お前は要らないとか、あっちへ行けとか言ってますが。小学校２年生の弟も妹として迎え入れ、本人なりにすごくかわいがってくれていますが、親の注意が里子に向いていることをいいことに、自由奔放さが増してきました。

遺伝子的につながりのない子供ということで、性格が読めない、本人の素質なのか、単なる乳児院で育っていたことの経験不足なのか、もしくは愛着形成のところから来る影響なのかが読めないというところがあります。実の子供だと、自分も子供のときそうだったなという部分があって、それはしようがない、でも、大人になったら大丈夫だよと思えるところがあるのですが、里子だと、どうなんだろう、ここはきちんと教えなければいけないのかとすごく迷うところがあったりします。だからこそ、これまで実子を育てていた中ではしなかった話し合いがより一層、夫婦で必要になってくるのを感じています。

16　うちなんか、なんちゃって家族

【里父】

里親に登録してから３年と４ヵ月になります。今までに延べ７名の中高校生の女の子を預かりました。

最初に私が養育家庭に興味を持った動機からお話します。仕事の関係でたまたま老人ホームの建築の話がありました。その中で、老人福祉に関する仕事の話はあるのに、児童福祉に関する話はないのかと何となく疑問に思ったのです。そんな中、知人からファミリーホームというのがあるよということを聞きました。養育者の家で５～６人の子供を養育する事業ですが、自分でできないかなと思い、東京都の担当部署にお話を聞きに行きました。そこでファミリーホームの形や、施設の問題など、いろんなお話を聞かせていただき、里親制度を知りました。

児童相談所で説明を受け、家内を説得して申請し、登録となりました。私も家内も仕事をしながら、養育家庭をやっているので、どうしても家の鍵を子供に預けなきゃいけないという問題がありました。なので、できれば中高生ぐらいの子がいいのかなということを、登録のときに児童相談所にお願いしていました。

中高生ですから、里親に預けられるということ、他人が一つ屋根の下で暮らすというような状況ははっきりと認識し我が家に来ています。しかし、そうであっても試し行動に近いようなことは時折見られます。実の父親や母親と、我々を重ね合わせて、自分の親だったらこうするのに、この里親のお父さんお母さんはどうだろうというようなことを、試しながらやっているところはあります。

いろんなことがありました。やっぱり養育していく中で大変な出来事というものを経験いたしました。万引きで警察に呼ばれて、子供を引き取りに行き、迷惑をかけたお店に挨拶と謝罪に同行したりしました。また、高校生には、将来のことも考えなきゃいけないので、アルバイトをオーケーとしていたのですが、最初はコンビニとかから始まるのですが、やはり少しでも多くお金がほしいということで、高額なアルバイトに行ってしまったことがありました。

不登校になってしまったり、近くの実家に帰ったり、学校からの帰りが遅かったり、反対に家を出るのが早かったりとかいった、子供たちの行動を把握できなくなったときは、非常に大変でした。こういった一連のことは全て児童相談所の担当の方と一緒になって解決していったというところがあります。

子供たちは、１人１部屋ですが、部屋の中は汚くて整理整頓がつかない状況が続いています。ただ、彼女たちにとっては、その部屋は自分の世界ですから、荒らされたくないということで、自分が汚くしていても入室は拒むので、苦労しました。

我が家に来ている子供たちは、身体的暴力や言葉の暴力、養育放棄を中学高校の年齢まで受けていた記憶が鮮明に頭の中に残っています。我が家では、暖かい家と食べることには事欠かさないようにやっています。食事が普通にできることが非常にうれしかった子供がいました。高価なものはありませんが、おかずが必ず２、３品出ることが、彼女にとってみると、いつも豪勢な御飯が食べられてすごいと言うのです。そういったことを話しながら食事をしていると、以前の状況は大変だったのではないかなと思います。そういうときにぽつりぽつりと、以前自分の家庭でこうだった、ああだったと、悲しかったことを話してくれるのですが、とても想像ができないことも彼女たちは体験しているので、そういうことを聞けば聞くほど、何とかしてあげたいなという気持ちになります。

自分の家庭を何とか再建したいというふうにずっと思っている子供もいます。しかし、再建する家庭のイメージは両親がそろっているわけではありません。非常に頭が良くて、社会情勢とかそんなことまで話をする子供も居ます。家庭の中で、もしこのことを普通に話せたら、もっともっと伸びるだろうなと思い、そうなれるように、家内と話をしながら、頑張っております。

１つ面白かったエピソードを紹介します。中学生で来た２人の姉妹でした。妹は本当に屈託のない子でして、自分が親元でできなかった部活とか、塾に行くとか、家でちゃんと御飯が食べられて、里親さんのところに来てうれしい、楽しいというふうに言っていました。ある日、食事をしながら我が家の話題になったときに、「うちなんか、なんちゃって家族だからな」と言ったのです。自分なりに里親宅で生活することを、そのように消化をして、なんちゃって家族だと言われたので「そうだね。なんちゃって家族だよね」と私たちも笑いました。大きい子を預かると、もう事情がわかっているので、そういう屈託のない話も反対にできるという状況でした。この女の子たちと一緒に暮らしていて、非常に考えさせられることや、反対にいうと私たち夫婦が試されて、我々夫婦のほうが勉強になっているという点が非常に大きいかなと感じております。

ただ、18歳になってから、措置解除になったときに、彼女たちに何ら後押しするものがないので、今からそれが心配というところがあります。高校卒業して、社会人として暮らしていけるような道を今後探っていきたいなと思っています。この子たちが社会に飛び出て受け入れられるような社会に、我々大人がしなきゃいけない、そのためには、いろんな方にこういう子たちがいるよということを社会の中で認識をしていただけると、また随分と彼女たちの行く末も違うのかなと思います。ここに来てくださった方々の中には熱心な方々が多いと思いますので、私たちと一緒に仲間になって、皆様と一緒にまた活動できたらなと思います。

17　いつか里親になろうと思っている人たちへ

【里父】

私は、神戸に生まれました。父が宣教師でしたので、私は日本で育ちました。アメリカの国籍ですけれども、アメリカには15年しか住んでいないので、ほとんど頭の中は日本語、日本の文化、日本の影響が一番強いと思っています。なので、家内がよく言っていますけれども、着ぐるみを着ているような外人だと。

今日は、英語で5W、この方式でいきます。これは日本でも有名だと思います。今日お話しする3つのポイントの1つ目は、体験です。私の里親としての体験の説明。親としては12年ですけれども、里親では3年だけです。楽しませていただいています。とても楽しいです。次は、発見です。発見したことがいっぱいあります。最後は、皆さんへの応援を私からしたいです。これから里親になりたい人、いつか里親になろうかなと思う人、里親ってよさそうだけれども、私はちょっとできないだろうという人に対してのトークをしたいです。

実子が2人、里子が2人、家内は1人います。結婚20年です。最初の7年間は子供が欲しかったのですが、生まれてこないということでした。何となく7年過ぎ、その7年間は、人に色々アドバイスされながら、子供が欲しいなという気持ちがどんどん大きくなって、だからこそ、ここに座っているのかもしれないです。

最初のWは、Who、誰です。誰が里親をできる。単純にやりたい人、そこからスタートしますね。そして、その次に人が好きな人。よく子供が好きというのですけれども、子供は一時的だけなのです。すぐ大人になってしまうのです。本当に一時期なのです。それは子供と言っちゃいけないです。今日子供、明日もうちょっと、明日もうちょっとで、早いうちにどんどん成長するので、子供を好きといったら、多分、ペットの方がいいのです。だけど、子供はあっという間にかわいくない大人になっちゃうので。面倒を見るのが好きというのが大事なポイントだと思います。次はWhatです。里親は何をするか。ただ毎日、愛ですね。何をするというのは、自分の生活を分けるのです。その子が家にいるのです。長い間、もう何年も何年もその家にいるかもしれないですし、大人までいるかもしれないですし、来年離れるかもしれないです。でも、今日います。今日が大事なのです。毎日、朝起きたら子供というのは青春の１つのページなので、大事な一日なのです。楽しいこと、おもしろいこと、真実であることを毎日探しているのです。里親でしたら、それの一部になれるのです。

次は、When。3番目はいつ。皆さん、テレビも見ていると思いますけれども、「いつ」と言ったら何と説明しますか。――言っていますね。「今でしょ！」ですね。すみません、ジョークも下手ですが。一つ里親として分かったのは、100%

用意は無理です。どの里親でも、人間ですから完全に100％用意できるというのは無理です。100％にはなれないので、とにかくプールみたいな感じで、飛び込んで泳ぎ始めないといけない。それは愛です。愛から始まります。里親もただスタートを切って、毎日ただ頑張るよ、やってみるよ、この子はこれが必要、この子は怒っている、この子は悲しんでいる、これをやるよ、やってみるよ、失敗だった、これをやってみるよ、やってみないといけないのです。続けて、続けて。絶対疲れないことですね。次の4番目のW、Whereに行きます。どこが、どこは里子では関係ないですね。でも、無条件な愛、無条件な愛を持っている大人というのはどこでも必要なのです。日本のどこでも必要ですし、そういう人間はいつでも必要なのです。里親は無条件な愛が必要で、最初は交流しかないかもしれないけれども、ちょっとずつ増えていくので、それが見えてくるのです。子供は無条件な愛が必要です。いずれその子供は本物の大人になるのです。今、子供だけなのです。

次に、最後のポイントに入りたいと思います。Why、Whyが一番大きいですね。何で、何でなるの。ニーズがあるからです。もう一つ、Why、できるから。みんな手を挙げてください。里親になるのは、この手が一番大事な道具なのです。手をこうやって子供に出すだけで、子供は安心するのです。子供に「どうしたの？」と言うのと、「どうしたの？」と言うのと全然違って、その子供の目も全然違うのです。

私の子供は男なのですけれども、英語でTogether Boysと私が勝手に考えたスローガンがあるのですが、僕もボーイ、その子もボーイだから、Together Boysだよ。今からお風呂に入るよ、今から牛乳を買いに行こうねと。Together Boysだからねと言ったら、その言葉だけですごく喜ぶのです。こんなに小さい、大したことではないけれども、喜ぶ言葉です。Together Boys、一緒の男の人。一緒なのです。それがチームなのです。

とにかく、里親のことはこういう変な私でもやっておりますし、大変なときは大変なのですけれども、難しいとは言いたくないのです。私の知り合いたちは「えっ？　子供をもう一人？　大変だね」と言うのですけれども、大変といったらネガティブですね。地震が大変だとか、床がこうなったとか、キャリアがだめになったとか、でも、里親は楽しいです。いいことです。とても勧めることなので、大変とは余り言いたくないですね。

今日は若い人も多いですけれども、人生のいつか。結婚していない20代の人、手を挙げてください。――チャンス、チャンス。結婚した相手に今聞いたポイントを何個か説明して、いつか里親になってください。

18　これが使命かなと……

【里母】

私は葛飾区で里親をしています。里親になろうと思ったきっかけとか、子供との生活・出会いについてお話しします。私たち夫婦が里親認定を受けたのは昨年、きっかけは主人の定年です。何か社会貢献できるようなことをして過ごしたいと言い出すようになりました。私もまさか主人がそんなことを言い出すとは、初めは思いもよらなかったのですが、何ができるだろうかと、２人で話をしました。

この年東日本大震災が起こりました。それで主人は、「里親になるというのはどうだろう」と私に言いました。震災の後から、東北の子供たちのニュースだとか読み物だとかで読むたびに、主人の心はだんだん里親に傾いていったのだと思います。里親になるには、覚悟が必要なんじゃないかとか、２人で本当にやっていけるのだろうかとか考えました。研修で養護施設に行ったときに、小さい子供は物珍しく見るのです。僕に会いに来てくれたのって、そういうコンタクトをとろうとするのです。やっぱり家庭って必要なのだなって本当に感じました。

平成24年の３月に認定されまして、どんな子供が来るだろうか。小学校低学年からだと高校卒業まで12年間は一緒に暮らせるぞ。私たちも年ですので、12年ぐらいという感じで話しをしていました。

小学校６年生の男の子がうちに来ました。一時保護でわずか８日間でした。男の子だったので、主人は一番喜んだのではと思います。今はどんな生活をしているのかなと、主人とも話すのですが、短い里親の体験をしました。

そしてまた何ヵ月か過ぎまして、高校３年生の女の子がきました。もう卒業まであと少しなのに、学校に行けないと卒業ができないということで、うちから学校に通うことになりました。今どきの高校生です。あるとき、帰ってきたら金髪になっていました。主人も私も仰天して、化粧はする、付けまつげはする、ぴかぴかの洋服は着る、あっけらかんとした子でした。私の長女とは一緒に暮らしているのですが、長女がいらいらするのです。私のほうがその間に板ばさみになって、楽しいとばかりは言えませんでしたが、実際は楽しい子でした。卒業後は施設に行くのは嫌がり、本人が調べてきて、アルバイトですが寮も完備している大手の企業の系列のところに行くことになり、４月初めまでうちにいました。いよいよ引っ越しすることになり、いろいろ買いそろえて、送り出すときに、主人が「レンタカー借りて自分たちで行こうよ」と言って、自分たちで子供を送っていきました。引越しから１カ月ぐらい経ってから電話があり「お母さん、御飯食べたい。行ってもいい？」って言われました。そんなふうに言ってくれるのは嬉しかったのですが、それっきりです。元気にやっていればいいかなと思います。

その子がいた２月半ば、中学１年生の子が一時保護でうちにきましたが、本人の希望で養護施設に移りました。主人を「お父さん」と呼ぶたびに、実親のことを思い出して、悲しい気持ちになっていたということでした。家族の温もりという中で生活させてやりたいと思っていましたが、それが逆に悲しみに変わるのならば、かわいそうだなと思い送り出しました。今まで子供が３人来て、別れるときは短くても長くても、やっぱり切ないのです。それが親なのかなって、今では思います。

夏休みが始まるころに、また一時保護で高校３年生の女の子が来ました。ちょっと今までと違うなって思いました。約束の時間に帰ってきたのは１日目だけ。２日目からは、約束の時間の１時間後ぐらいに電話が鳴るのです。「遅くなります。１時間ぐらい」って言いながらも、なかなか帰ってこない。夏休みだけど高校３年生だから「学校に行く」と言って、朝早く家を出て行きます。お弁当を持たせようとしたら、「お弁当は嫌いです」と言われました。500円渡して「パンか何か買いなさい」って渡しました。毎日500円持って、土曜も日曜も朝早く家を出て、夜遅く帰ってくるのです。きれい好きな子じゃなくて、顔を洗っているのかなって思って「顔洗った？」って言ったら返事をして洗面所に行きますが、顔をちらっと濡らすだけなのです。「歯磨きしてる？」って言ったら「お風呂でしています」って言うのですが、どうかなって感じでした。ある日門限はとうに過ぎて、終電がなくなっても家に帰ってきませんでした。主人と話して、警察に保護願いを出しまして、寝るに寝られずに過ごしていました。午前２時半から３時の間ぐらいに、実母さんから「うちに来ています」って電話がありました。「朝、帰します」と言って、次の日も帰ってこないのです。児童相談所の方にお話しして、親御さんのところに帰ることになりました。いろんなケースがあるねって、主人と話しました。子供は子供の人格とか人生とかあるし、その子のケースによっていろんな形で接していきたいなという話をしました。私たちは子供のことで話し合い、会話のない家庭にならないのも、これのおかげかなと今では思っております。一緒に住んでいる娘と３人で協力し合って、里親としてやっていかなければ成り立たないなって思っております。うちの家族にとっても、里子が来るということはいいことと思います。いらいらしたり、合わないなと思ったりもします。今もまた高校１年生の女の子が学校に通うためにうちで生活をということで、来ました。この子は高校卒業して、大学進学を望んでいます。私たちは最初、小さい子を望んでいましたが、高校生とか、ある程度育ち上がった子をお預かりすることになりましたが、これが私たちに与えられた使命かなと今では思っております。少しでも役立つことなら、里親として続けていきたいと思っております。

19　里子としての体験をいろんな人に話して養育家庭を広めていきたい

【里子】

僕はずっと父子家庭で、事情があって中学校２年生のときに約１ヵ月、児童相談所でお世話になり、その後、里親宅で６年間暮らしました。養育家庭という制度を知らずに飛び込んだのですが、僕と里父、里母の家庭かと思ったら、実子の兄貴が５人いて、１人増えたところで何も変わらないだろうということで、引き取ってもらえたのです。里親家庭では、ぎちぎちの生活をさせられるのかなと思ったのですが、朝、学校に行くときに起こされて朝飯を食えとか、もう10時だから寝ろとか、どこの家庭でもあるようなことをずっとやってきて、特に気を使われたこともないし、気を使ったこともない、普通の家庭生活を送れたかなと思っております。

皆さんから感嘆されるのは、最初にやらされたことが、朝４時起きの新聞配達でした。新聞配達なんてやったことないし、何で朝起きてやらなきゃいけないのだろうと思いながら、その家のルールだったら仕方ないかという形で。その新聞配達というのは、休みが12月31日、１月１日の２日間しかなくて、修学旅行とか、そういう特別な行事のとき以外は本当に毎日で「何で俺はこれをやってんの」と聞いたら、上の兄貴５人がやってきたから、お前もうちの家族になるんだったらやれという話で。そのうちに当たり前になって、高校に入って学校帰りにアルバイトしていたときも毎日早起きして新聞配達をやっていました。実は、新聞配達のお金は一切、僕はもらっていなかったのですが、いざ高校を出て自立をするとき、里母さんが新聞配達の給料を全部入れた通帳を僕に渡してくれて、これまでお前が頑張ってきたもの、これで頑張って自立していけと。それで、そのお金をもとに今、ひとり暮らしをしています。新聞配達は、お金という形もそうだし、家族の一員になれたということもあるので、自分にとっては大事な経験だったと思っております。

養育家庭と普通の家族についてですが、まず、子供に対して本当に余計な気は一切使わないでいいと思います。親が子に気を使う関係なんて最悪だと思っているので、気を使わないで、引き取るのだったら子供として接するのが子供にとってはすごくいいかなと思っています。例えば夕飯のときに、これは嫌いだから食べたくないと言ったら怒られる。例えばそこで、じゃあ、お前が嫌いなら他のものにしようと言われたら、きっと子供が真っすぐ育たないのではないかなと思います。また、里子の経験とか、自分の家族じゃないところで生活する子供がいたら、それはラッキーだと思ってほしいです。里子が里子である強みというのが、家族というものが何なのかというのを考えることができる点

だと思います。普通の家庭だったら、ちょっとケンカしたぐらいで家を出ていったりすることもあるし、好きでお母さんのところに生まれたわけじゃないとケンかをするかもしれないのですが、里子からしたら、まず、親がいるということ自体をよく考えることができる点が、ほかの人よりも僕は優れていると思っています。普通の人は考えない、当たり前だと思っていることを僕たちは考えることができるから。その点において、里子はほかの普通の家庭よりも必ずしも不幸せではない、むしろラッキーだと思っているので、中学校２年生から高校卒業までのこの６年と少しの期間は、僕にとってすごくいい経験でした。

今回の会場池袋は、実はすごく思い出深い土地で、僕は17歳のときに、大学に行かないのだったら何をやりたいという話になって、テレビや舞台とかをやりたくて芸能事務所の研修生になって、2回目ぐらいの舞台が池袋のホールでした。その舞台がきっかけで自分の名前が売れてきました。18歳で自立をしなければいけないというのは、制度の都合で何となく知ってはいました。大学なんて行けるわけないと。今は里子でも大学に行けるみたいだし、自分の努力で大学なんてどうにでもなると思っていたのですが、里子だからというわけではなくて、僕個人としては大学に何の魅力も感じないので、自立するのだったら社会に早く出たいなと思って、社会人として今、生活しております。

里親は僕を引き取ってくれたときから、私は60歳を過ぎていてもう力になれないけれども、まだ引き取られていない子がたくさんいるから、お前が広めていってほしいという話は何となくしていたのですが、いざ自立するときに、だめ押しでもう一回言われました。自立するお前は大変だと思うけれど、これまでの経験もあるし、体験を生かしていろいろな人に養育家庭を広めていってほしいと。体験発表会のコンセプトと全く同じことを言われて、６年間もお世話になったし、俺自身もこうやって話すだけじゃなくて、聞く側としてもいろいろな人の話を聞いてきたし、こういうものが広まればいいなと思っています。今日話を聞いてくれた方は「こういう話があったよ」というのをぜひいろいろな人に話していただき、この中で１人でも２人でも、養育家庭にチャレンジしようかなと思っている人がいれば、気楽な気持ちで、うちで生活するのだったらという気持ちでどんどんチャレンジしていったら、どんどん幸せな子供たちが増えると思っています。自立後、たまに実家に挨拶に行ったりするときも、「お帰り」と言ってくれる。だから、そういう家族が制度、制度するというよりは、もっと自然なものになってほしいかなという思いで、機会があったら全国どこでも話していきたいし、さらに舞台とか、メジャーなところに出ていっても、どんどんこれを広めたいと思っています。

20　養育家庭の戸惑いと喜び

【里父】

うちの家族構成は私と女房。あと私の母親がいます。Mという女の子の４人で、あと６匹のネコがいます。この文章はうちの女房がほとんどつくりました。

Mと初めて会ったのは３月下旬でした。Mは２歳７ヵ月。かねてより里子を迎え、生活することが私の楽しみでした。会える日をどんなに待ち望んでいたことでしょう。当時のMの様子は、担当の保育士さんの膝に乗り、私を警戒しながら、こちらを監視するかのように、また、Mもこちらから目をそらすことなく見ていました。その後、週３回欠かさずMに会いに行きました。交流中はなかなか気を許すこともなく、笑顔を私に見せることも、手を握ることもなく３ヵ月が過ぎました。「里子を迎えたい」という抱いた気持ちは、次第に「これで大丈夫なの？」と楽しみが不安になっていくようでした。

そして夏の暑い日に、初めて我が家にMが遊びに来ました。我が家に到着するなり、出迎えた祖母とは、まるで以前から知り合いであったかのようにすぐに手をつなぎ、心を開いたようです。楽しそうで笑顔いっぱいのMを見て、乳児院で見るMとは違う反応にびっくりしたのと、とてもうれしかったことを、昨日のように思い出します。

３歳のクリスマスにMは我が家に委託となりました。委託して約２ヵ月が過ぎたころ、ときどき娘は「帰る」と言って、自分の持ち物をそろえて帰り支度をする行動をするようになりました。まだ我が家にはなじめていないのかなと、初めは思っていました。そして３ヵ月を過ぎたころに、乳児院に遊びに行きました。久しぶりに会う担当の保育士さんや仲間の子供たちに歓迎され、初めは恥ずかしがっていましたが、すぐに打ち解け、楽しく遊んで過ごしました。その帰り道です。娘は突然泣き出しました。なだめようと、抱き寄せようとしましたが、手でいやいやするようなしぐさでよけられてしまいました。たくさん泣いて、担当の保育士さんの名前を何度も呼び続けました。

私はこのとき「帰る」の意味を知ることができました。数ヵ月前より知り合った人をママだパパだと諭され、何度か外泊を重ねて、突然生活の場が変わり、乳児院に戻ることができなくなってしまったこと。大好きな母親のような存在だった保育士さんに会えなくなってしまったこと。私たちに伝えられず、悲しく、さびしかったのだと思われました。帰り支度が精一杯の気持ちのあらわれだったと気づかされました。委託された日にきちんとわかりやすい言葉で「ここがMのおうちで、私たちが家族だよ。よろしくね」と委託の意味を話しておくべきだったと反省させられました。しばらく泣いた後、私はMに改めて「保育士のＹさんは

みんなのお母さんなんだよ。みんなのお世話をする仕事をしているんだよ。Mの家族はパパ、ママ、おばあちゃんだよ」と言って言い聞かせて「さあ、おうちに帰ろう」と言うと、小さくうなずき、帰りました。娘の中では、委託されたことが長期外泊の延長で、娘の気持ちの中ではお別れができていなかったようです。その件があってからは、帰り支度はしなくなりました。その後は保育士さんの話をしたりしますが、みんなのお母さんだからお世話をしているんだと、自分に言い聞かせるように話をしてくれます。今でも、娘にとっても、私たちにとっても、保育士さんは大切な存在です。その後は大きな試し行動はありませんでした。

今回の体験発表会を機に当時のことを振り返ると、私は本当に余裕がなく、今思うと娘の行動は当然の行動だったのだと思います。距離を置いて娘の行動を見ていると、けなげに頑張っている娘は強いなと感心させられております。また、おばあちゃんに至っては本当に娘をかわいがってくれています。親がわりの私たち以上に親身になり、遊びにも精一杯付き合ってくれています。たくさんの方も私たちの、我が家の子供として愛してくれています。

現在は保育園の年長さんです。保育園にもすぐに慣れて、友達とはしゃいでいる姿を見ると、私も何だかうれしくなってきます。９月には６歳になりました。目覚しくお姉さんらしくなってきたようにも思います。小さい子供の面度を見たがるようになり、お手伝いをしたがるようになりました。

最近ですが、唐突に「私はママから生まれたんだよね？生まれたときはどんなんだった？名前はどうやってつけたの？」と尋ねてくることがあります。「ママのおなかから生まれてきたんだよね？卵だった？よその人から生まれたの？」との質問に「どっちだと思う？」と、私は逆に聞き返しました。娘は「ママに決まっている」と言っていました。以前より児相の担当の方から真実告知の話を勧められております。そろそろ告知の時期にきている様子なので、気負わずして伝えられるように考えています。

最後になります。来年は小学生です。ランドセルや机の準備をしています。身長も少しずつ伸び、お姫様に憧れ、DSのマリオが大好きです。ここからはまた娘と女房の会話ですが、こう言っております。「私、パパと結婚するね。ママは素敵な王子様と結婚してね」などと言ったりしています。このような会話は大人３人の生活にはない、明るく楽しい生活を送っております。私たち夫婦も養育家庭を通じて、新しい交友関係も広がりました。先輩の里親さんに話を聞いてもらったり、アドバイスをいただいたり、元気をもらったりしています。親子でお世話になっております。是非、皆さんも里子を迎え、明るく、温かく、優しい家庭をつくって楽しんではいかがですか。

21　素晴らしく激変した日々

【里母】

私の夫は作業療法士で、様々な障害を持った方たちのリハビリに当たっています。私は幼稚園で20年ほど働いてきました。２人とも人に関わる仕事をしていて、人が好きで人の成長や発達などを面白いなと、関心を強く持っている方だと思います。結婚当初から、子供を持ち家族が増えていくのは当然の流れだと思っていたのですが、なかなか子供を授かりませんでした。このまま夫婦二人で気楽に楽しい人生もいいかなと思っていました。そんな時、児童養護施設から５人の子供たちを自分のクラスで預かるようになりました。それぞれバックグラウンドの違う４歳の子供たちを年中の途中から卒業まで預かり、その子たちを通して色々なことを感じさせられ教えてもらいました。心と体が育つ最も大事な幼児期に不安定な状況に置かれたり、特定な大人との愛着関係がつくれないでいると、なかなか人に受け入れられづらい行動をとってしまったり、愛されづらい行動をとってしまうのだなということを見て感じました。当たり前に家庭の中で愛されて育つことが人にとって、その後の長い人生においてすごく大事なことなのだということを改めて思い知らされました。その５人の子供たちとの出会いがたくさんの子供の保育に当たるそれまでの私を、１人の子供を大事に家庭の中で育てたいという思いに変えさせてくれました。そして、たまたま幼稚園に通っておられた里母さんが、「もしかしたら興味があるかと思って…」と言って、ほっとファミリーのパンフレットをくださいました。やらないで後悔するよりは何でも踏み出してみようと思って、そこから私たちの生活が素晴らしく激変しました。

児童相談所から１歳６ヵ月の女の子の紹介があり、どんな子供であっても、初めに紹介される子供がきっと運命の子供なのではないかという思いもあり、「会います。」と児童相談所にお返事をしました。

乳児院で、担当保育士と２人で遊んでいるお部屋に、夫と私と乳児院の心理士が加わって、子供は大人たちに囲まれてすごく緊張していて、ニコリともできないような15分の面会でした。その間、ちらりとその子と目が合ったか合わないかでしたが、なぜか、この子とはやっていける、この子とは家族になれるんだ…と直感して、自分もすごく緊張していたので涙が出てとまらなかったことをよく覚えています。その日から乳児院での交流のプログラムに沿って面会を重ねていきました。片道１時間半ぐらいほぼ毎日、定期を買って会いに行く日々でした。初めは30分ぐらいの面会から、１時間、ちょっと外出、自宅外出と時間が長くなっていくのですけれども、うちに外出に来るまでは、「こんにちは。」と言うと、「いや！」と言って逃げていくような、そんな挨拶が毎回でした。初めて我が家

に泊まった日の夜は、泣いて泣いてすごく辛そうでした。でも、小さい心と体で一生懸命なれようとしているのだなということが伝わってきました。早く頑張らないでいい、早くこの子にとってこのうちが自分の自然な家になってほしいなと思いながらその夜は一緒に過ごしました。その後、４日間の外泊を経て、その子を乳児院に連れて帰ると、私の手をぎゅっと握って、その里子がぽろぽろぽろぽろ泣いたのです。多分、離れたくないという気持ちだったと思いますが、乳児院の方に「もう大丈夫ですね。」と言われて、それから数日後、長期外泊になり委託となりました。乳児院では、プロの調理師、栄養士さんにおいしい御飯をつくってもらって食べさせてもらっていた子供ですが、料理がすごく私は苦手なのです。成長が滞っちゃいけないというプレッシャーがすごく大きくて、何を食べさせよう、これでいいのかな、量は、味は、バランスは…と24時間、子供を育てるというのは食べ物のことばかり考えなければいけないのかなと思っていたり、体重が減ったらどうしようとかと、そういうことばかり考えていたのですけれども、１歳児半健診時に保健師さんから「こういう体型なら一度ぐらい食事をとらなくても全然問題ないわよ。」と言われて、ちょっと肩の荷が楽になったということも覚えています。

私たち夫婦にとって、ちょうど結婚20年目に里子が来てくれたのですが、新しく加わった家族に、私たちの両親もきょうだいも姪っ子たちも本当に喜んでくれました。１歳10ヵ月という本当に小さいときに来てくれたので、歩く姿も、何かを伝えようとするたどたどしい言葉も、目の輝きも、本当にかわいい盛りに来ただけに、みんなこの子に夢中になりました。隣近所の方たちにも、急に子供が来て驚かれちゃいけないという思いもあって、事前に里親になって小さな子供が来ますということをお伝えしたのですけれども、みんなその子の成長をすごく喜んでいただけて、子供が加わるというのは本当におめでたいことなのだなということを知らされています。私たち夫婦のきずなというのも、前に比べるとちょっと強くなったのではないかなと思っています。子供の成長とともに、自分たちも育てられているなということを感じています。

御飯を食べていっぱい遊んで、昼寝をしておふろに入って、歯みがきをして寝る…という当たり前の毎日。頑張らなくていい、普通に過ごす毎日にいつの間にかなっていました。１年が過ぎると、去年はこんなだったのだという、実績みたいなものが家族としての安心感になっていることにも気づかされました。

３歳になったばかりの子と一緒に生活をし始めて１年４ヵ月、濃密な１年４ヵ月だったと思います。今は思いっきり楽しんで、いつか大変なことにぶち当たったときに一緒に乗り越えていかれる力を育んでいきたいなと思っています。

平成 25 年度　養育家庭体験発表会　参加者数

開催日	開催場所	区市町村	担当児童相談所	参加人数				
				養育家庭・ﾌﾚﾝﾄﾞﾎｰﾑ	区市町村職員	民生・児童委員	一般・その他	合計
9 月 2 日	青梅市役所2階 204会議室	青梅市	立川	4	12	4	11	31
10 月 5 日	狛江市中央公民館 地下 1 階ホール	狛江市	世田谷	0	3	0	12	15
10 月 6 日	アクロスあらかわ	荒川区	北	3	0	14	23	40
10 月 11 日	西東京市住吉会館ルピナス 2 階研修室	西東京市	小平	5	4	2	37	48
10 月 12 日	女性総合センター アイム 1階ホール	立川市	立川	2	11	17	34	64
10 月 17 日	日野市役所 505 会議室	日野市	八王子	10	10	9	21	50
10 月 19 日	北とぴあ	北区	北	4	4	5	26	39
10 月 21 日	清瀬市児童センターころぽっくる	清瀬市	小平	4	4	0	17	25
10 月 27 日	中央区教育センター視聴覚ホール・保健センター食堂	中央区	センター	2	4	1	27	34
10 月 28 日	町田市民フォーラム ホール	町田市	八王子	8	30	25	33	96
10 月 31 日	三鷹産業プラザ	三鷹市	杉並	5	20	3	25	53
11 月 1 日	練馬区生涯学習センター	練馬区	センター	1	11	6	92	110
11 月 1 日	豊島区生活産業プラザ8階 多目的ホール	豊島区	センター	4	7	46	40	97
11 月 2 日	あんさんぶる荻窪	杉並区	杉並	3	3	0	38	44
11 月 5 日	目黒区役所 E会議室	目黒区	品川	0	0	5	11	16
11 月 6 日	板橋区立グリーンホール	板橋区	北	1	37	0	10	48
11 月 6 日	調布市文化会館「たづくり」8階映像シアター	調布市	多摩	3	27	3	24	57
11 月 7 日	あきる野市役所5階 503会議室	あきる野市	立川	5	5	52	39	101
11 月 8 日	東大和市役所 会議棟 2 階	東大和市	小平	5	2	0	9	16
11 月 8 日	渋谷区役所神南分庁舎	渋谷区	センター	2	4	2	19	27
11 月 11 日	小川一丁目児童館2階 地域センター	小平市	小平	5	10	6	19	40
11 月 11 日	新宿区子ども総合センター研修室	新宿区	センター	0	27	41	39	107
11 月 12 日	福生市子ども家庭支援センター	福生市	立川	2	6	0	14	22
11 月 14 日	東久留米市役所 1 階市民プラザ	東久留米市	小平	5	0	5	16	26
11 月 14 日	健康プラザかつしか小ホール	葛飾区	足立	1	4	10	13	28
11 月 14 日	多摩市役所西第一、第二会議室	多摩市	多摩	2	22	4	19	47
11 月 15 日	国立市役所3階 第1会議室	国立市	立川	4	12	4	21	41
11 月 15 日	台東区役所10階大会議室	台東区	センター	1	14	13	42	70
11 月 16 日	文京区男女平等センター	文京区	センター	1	5	2	57	65
11 月 16 日	江東区南砂子ども家庭支援センター	江東区	江東	3	0	0	8	11
11 月 16 日	大田区役所201・202会議室	大田区	品川	0	0	33	19	52
11 月 17 日	みなと保健所8階大会議室	港区	センター	1	11	6	94	112
11 月 18 日	瑞穂町子ども家庭支援センター ひばり	瑞穂町	立川	3	4	8	13	28
11 月 18 日	小金井市役所第二庁舎 801 会議室	小金井市	小平	3	8	2	28	41
11 月 19 日	東村山市役所 市民センター	東村山市	小平	5	1	2	29	37
11 月 19 日	奥多摩町子ども家庭支援センター「きこりん」	奥多摩町	立川	4	7	1	16	28
11 月 19 日	神田さくら館7階研修室	千代田区	センター	2	5	1	19	27
11 月 19 日	稲城市地域振興プラザ4階会議室	稲城市	多摩	0	12	8	14	34
11 月 21 日	武蔵野プレイス	武蔵野市	杉並	5	6	6	22	39
11 月 21 日	生涯学習センター クリエイトホール	八王子市	八王子	10	36	20	91	157
11 月 22 日	昭島市役所6階 602会議室	昭島市	立川	4	5	3	12	24
11 月 23 日	荏原第五地域センター 第一集会室	品川区	品川	1	2	31	39	73
11 月 26 日	羽村市生涯学習センター ゆとろぎ 2階講座室	羽村市	立川	7	12	16	16	51
11 月 27 日	府中市子供家庭支援センター「たっち」会議室	府中市	多摩	0	8	1	22	31
11 月 27 日	中野区役所　第12会議室	中野区	杉並	3	6	0	25	34
11 月 28 日	武蔵村山市民総合センター3階 集会室	武蔵村山市	小平	5	5	1	29	40
11 月 29 日	男女共同参画センターらぷらす研修室	世田谷区	世田谷	0	1	0	34	35
11 月 29 日	すみだリバーサイドホール ミニシアター	墨田区	江東	5	10	2	12	29
11 月 30 日	国分寺市Ｌホール	国分寺市	小平	4	6	5	50	65
12 月 2 日	こども支援センターげんき研修室3	足立区	足立	12	1	0	33	46
12 月 9 日	タワーホール船堀小ホール	江戸川区	江東	8	38	56	57	159
合　　計				177	482	481	1470	2,610

平成 25 年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	9/2 青梅市	10/5 狛江市	10/6 荒川区	10/11 西東京市	10/12 立川市	10/17 日野市	10/19 北区	10/21 清瀬市	10/27 中央区	10/28 町田市	10/31 三鷹市	11/1 練馬区	11/1 豊島区	11/2 杉並区	11/5 目黒区	11/6 板橋区	11/6 調布市	11/7 あきる野市
年齢 ～ 20 代	1	3	2	4	3	1	2	1	3	4	3	2	9	1	2	6	4	2
30 代	1	2	0	3	3	4	3	0	1	14	7	2	3	4	2	2	6	1
40 代	3	3	5	2	8	5	6	4	2	18	8	12	5	7	5	12	6	4
50 代	6	1	8	2	6	13	10	4	3	19	7	18	10	12	4	24	6	15
60 代～	4	1	4	8	14	8	8	1	1	11	6	12	18	2	2	1	9	22
70 代～	0	0	6	0	8	1	5	0	2	4	1	0	13	0	0	0	1	9
不明・無回答	0	0	0	1	0	1		0	1	0	1	1	1	2	0	0	0	0
性別 男性	6	2	10	5	5	4	8	2	2	15	5	5	6	7	2	10	2	19
女性	8	8	15	15	34	28	25	8	9	52	27	40	51	19	13	33	28	33
不明・無回答	1	0	0	0	3	1	1	0	2	3	1	2	2	2	0	2	2	1
所属 養育家庭	2	0	1	3	0	3	3	2	0	15	1	0	1	0	0	0	0	3
フレンドホーム	0	0	0	0	1	1	1	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0
都職員	1	2	1	0	0	8	1	0	0	6	2	0	1	0	0	2	0	8
区市町村職員	6	3	1	0	5	5	3	0	1	3	12	7	5	0	0	0	11	2
民生児童委員	3	0	9	7	13	0	4	0	1	0	4	1	37	0	0	32	2	29
主任児童委員	1	0	4	0	2	2	0	0	1	5	0	3	0	0	4	0	2	3
学生	0	3	2	0	1	1	0	0	2	15	1	1	6	1	1	5	1	0
一般	2	1	6	4	18	1	14	8	7	3	6	13	5	19	8	3	7	3
その他	0	1	1	6	2	11	6	0	1	8	7	21	3	5	2	2	6	1
不明・無回答	0	0	0	0	0	1	2	0	0	2	0	1	1	3	0	1	3	4
養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）																		
区報・市報・ホームページ	6	1	11	7	16	14	6	5	7	23	15	13	23	11	5	18	7	24
ポスターで	0	1	3	1	2	4	1	3	1	11	2	4	2	0	0	11	1	3
児相・子ども家庭支援センター	6	3	8	6	8	18	12	3	1	24	3	17	20	2	5	20	15	21
児童福祉施設	1	0	1	6	3	2	3	1	0	11	5	5	2	4	2	9	2	0
インターネットで	0	0	0	0	4	2	2	1	1	2	2	0	3	3	1	1	1	1
テレビ番組	0	0	2	4	2	2	2	1	0	3	0	7	2	0	0	1	0	2
テレビ CM	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1
ラジオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新聞・雑誌	0	1	1	1	3	5	2	2	3	2	0	6	6	1	2	3	4	2
知人・友人	0	3	3	2	9	3	2	1	2	6	2	3	5	0	1	5	3	3
図書	0	0	0	0	0	2	1	1	0	1	0	0	0	0	2	1	1	0
公開講座	1	0	0	1	2	2	2	1	0	6	3	2	3	2	1	4	1	1
その他	1	2	5	5	3	4	5	1	1	8	4	7	10	4	1	2	4	12
不明・無回答	1	0	0	1	0	2	0	0	0	3	0	0	1	0	1	0	0	3
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）																		
区報・市報で	6	3	6	2	6	8	5	3	5	17	8	5	9	8	5	18	4	24
都報で	0	0	3	1	1	2	3	0	1	1	1	3	1	0	0	2	0	1
ポスターで	0	2	0	1	4	1	1	0	0	4	1	4	0	0	0	0	2	1
チラシで	3	4	4	4	11	15	9	1	4	27	8	7	12	7	6	10	12	10
インターネットで	1	0	3	1	1	0	0	1	3	0	3	1	1	5	2	1	2	0
知人に勧められて	1	1	3	4	11	1	5	1	2	3	5	5	6	0	1	1	5	0
過去に参加	5	0	5	3	2	7	5	1	4	13	4	2	18	1	1	9	5	9
問い合わせた	0	0	0	1	2	0	2	2	0	3	0	0	7	0	0	1	0	2
その他	2	2	3	5	7	4	8	2	0	20	7	18	14	7	4	12	2	21
不明・無回答	1	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	2	4	0	0	0	0	3
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）																		
養育家庭になりたいと思っていたから	0	0	2	0	4	2	2	1	1	2	7	2	0	9	1	0	1	1
養育家庭制度に興味・関心があったから	6	7	12	9	13	7	18	4	7	17	13	14	17	10	12	14	17	15
子育てに関わる話が聞けると思ったから	4	3	8	4	11	8	16	0	3	21	5	20	14	3	5	11	10	13
仕事や学問などの参考にするため	4	6	4	12	13	18	4	3	3	38	13	20	10	8	2	32	13	15
その他	1	1	1	4	17	1	3	1	0	2	1	6	10	2	2	2	1	10
不明・無回答	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	2	7	2	0	0	0	3
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																		
とても良かった	7	7	16	14	32	24	11	3	8	25	22	17	39	16	12	21	13	27
良かった	4	3	4	4	8	7	18	5	2	34	11	20	14	11	3	19	13	22
普通	0	0	1	1	0	0	2	0	0	7	0	3	2	1	0	1	0	1
あまり良くなかった	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	4	0	4	0	1	2	3	2	2	4	0	7	4	0	0	4	0	3
感想数	9	8	14	8	19	20	20	8	5	28	19	16	36	17	11	12	19	21
アンケート回答	15	10	25	20	42	33	34	10	13	70	33	47	59	28	15	45	32	53
参加者総数	31	15	40	48	64	50	39	25	34	96	53	110	97	44	16	48	57	101

平成 25 年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	11/8 東大和市	11/8 渋谷区	11/11 小平市	11/11 新宿区	11/12 福生市	11/14 東久留米市	11/14 葛飾区	11/14 多摩市	11/15 国立市	11/15 台東区	11/16 文京区	11/16 江東区	11/16 大田区	11/17 港区	11/18 瑞穂町	11/18 小金井市	11/19 東村山市	11/19 奥多摩町
年齢 ～ 20 代	0	2	2	6	0	1	1	3	5	2	6	3	5	7	1	2	0	0
30 代	4	4	3	5	2	9	2	8	5	12	7	0	1	17	1	3	9	1
40 代	1	2	3	7	1	6	7	8	4	8	11	2	6	11	1	6	15	1
50 代	0	1	10	12	5	5	2	11	2	6	2	1	4	6	4	0	4	2
60 代～	1	3	3	14	1	1	7	4	4	12	6	0	22	8	8	4	1	1
70 代～	0	0	0	5	0	2	4	1	0	8	1	0	7	3	1	0	0	0
不明・無回答	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1		0	2	1	0	0	0	0
性別 男性	2	3	3	6	2	4	2	11	3	4	5	0	5	13	7	4	2	0
女性	4	9	18	42	7	21	21	22	17	44	28	6	41	39	8	11	27	5
不明・無回答	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0
所属 養育家庭	0	0	1	0	0	5	1	0	1	1	1	0	0	0	2	1	0	0
フレンドホーム	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
都職員	0	1	0	3	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
区市町村職員	0	0	2	5	0	0	0	24	7	4	5	0	0	0	0	0	1	0
民生児童委員	0	1	4	17	0	4	10	0	3	9	2	0	30	5	8	2	0	1
主任児童委員	0	1	2	6	0	0	0	0	0	3	0	0	3	2	0	0	2	0
学生	0	2	1	4	1	0	1	0	1	0	6	3	5	6	0	0	0	0
一般	2	2	5	1	1	14	6	3	5	9	17	3	7	32	1	7	26	0
その他	4	5	6	9	5	1	5	3	3	17	2	0	1	6	2	5	0	4
不明・無回答	0	0	0	3	1	1	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0
養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）																		
区報・市報・ホームページ	3	2	9	21	3	5	8	15	6	23	9	2	21	15	8	9	6	2
ポスターで	1	0	1	3	2	2	4	3	0	3	8	0	3	12	2	1	1	0
児相・子ども家庭支援センター	0	1	4	20	3	2	3	11	11	14	5	0	17	14	11	4	5	3
児童福祉施設	3	3	6	5	1	2	2	1	3	2	3	0	1	1	6	5	3	0
インターネットで	1	1	1	1	0	0	2	1	0	1	2	1	2	1	2	1	0	0
テレビ番組	0	1	1	2	0	0	3	0	1	7	1	0	3	0	0	1	3	0
テレビ CM	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
ラジオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新聞・雑誌	0	1	2	2	1	0	1	3	0	4	1	0	2	2	0	1	1	0
知人・友人	1	1	2	2	0	2	2	1	3	5	3	0	2	4	1	0	3	0
図書	1	1	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0
公開講座	1	1	2	8	0	0	1	3	3	1	5	2	3	6	0	1	0	0
その他	2	3	2	10	1	3	7	5	0	8	5	1	12	10	1	2	8	0
不明・無回答	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	5	0	1	1	0	0	3	0
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）																		
区報・市報で	1	2	6	11	1	1	4	7	8	10	9	1	10	8	5	3	2	3
都報で	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	2	1	2	13	0	1	1	0
ポスターで	0	0	2	0	0	0	3	2	0	2	5	0	1	0	1	2	0	0
チラシで	1	3	10	11	5	5	6	5	9	9	5	1	14	7	7	8	13	1
インターネットで	2	0	1	0	0	0	1	1	0	1	3	1	2	1	1	2	0	0
知人に勧められて	1	2	2	1	1	2	1	1	5	4	8	0	0	9	2	0	4	0
過去に参加	2	1	3	9	0	2	6	1	3	4	1	1	7	6	7	1	0	2
問い合わせた	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	2	2	0	0	0
その他	1	6	3	27	2	3	5	11	2	14	7	3	16	15	1	1	12	0
不明・無回答	0	0	0	2	0	7	2	1	0	4	2	0	2	1	1	0	1	0
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）																		
養育家庭になりたいと思っていたから	1	1	1	2	1	0	0	1	0	1	1	0	4	2	0	4	0	1
養育家庭制度に興味・関心があったから	2	3	8	17	1	6	15	13	11	8	3	3	17	7	4	10	6	2
子育てに関わる話が聞けると思ったから	2	2	4	12	0	5	5	6	5	27	18	0	18	28	9	1	13	1
仕事や学問などの参考にするため	3	8	9	18	5	5	3	15	8	16	14	3	12	17	6	4	5	1
その他	1	2	5	6	2	1	2	3	1	2	2	0	4	5	1	1	4	0
不明・無回答	0	0	0	2	0	7	1	0	0	0	2	0	3	0	1	0	1	1
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																		
とても良かった	3	8	13	33	8	7	17	18	15	30	23	5	27	32	9	8	16	5
良かった	2	2	8	14	1	5	5	12	5	15	6	1	13	14	6	4	6	0
普通	0	1	0	1	0	0	0	5	0	1	1	0	1	3	0	0	3	0
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	1	1	0	1	0	8	1	0	0	3	3	0	6	3	1	0	4	0
感想数	2	7	8	19	7	13	13	8	16	13	18	6	27	14	5	8	19	0
アンケート回答	6	12	21	49	9	25	23	35	20	49	33	6	47	53	16	15	29	5
参加者総数	16	27	40	107	22	26	28	47	41	70	65	11	52	112	28	41	37	28

平成 25 年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	11/19 千代田区	11/19 稲城市	11/21 武蔵野市	11/21 八王子市	11/22 昭島市	11/23 品川区	11/26 羽村市	11/27 府中市	11/27 中野区	11/28 武蔵村山市	11/29 世田谷区	11/29 墨田区	11/30 国分寺市	12/2 足立区	12/9 江戸川区	総計
年齢 ～ 20 代	7	0	1	33	1	15	0	3	1	1	5	1	21	21	9	218
30 代	1	5	5	24	0	1	5	2	9	1	4	1	10	1	5	225
40 代	4	1	5	11	0	13	3	6	7	0	12	3	8	6	27	321
50 代	0	3	6	12	4	10	8	4	0	1	2	3	7	5	24	334
60 代～	2	3	4	8	4	17	15	1	1	3	3	6	3	3	26	331
70 代～	1	1	0	2	0	6	2	1	0	9	0	0	0	0	6	110
不明・無回答	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0	1	19
性別 男性	2	5	3	15	3	8	2	5	2	3	3	2	13	5	17	279
女性	13	8	18	72	6	50	28	11	16	12	23	11	36	30	77	1,227
不明・無回答	1	0	0	3	0	5	3	0	0	0	0	2	1	1	4	50
所属 養育家庭	0	0	3	15	0	1	4	4	1	0	0	2	3	8	4	92
フレンドホーム	0	0	1	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
都職員	0	0	0	4	2	0	0	3	1	0	2	1	2	0	2	59
区市町村職員	0	4	0	1	0	2	1	0	0	0	1	5	0	0	14	140
民生児童委員	1	3	2	0	2	22	12	1	0	0	0	2	3	0	32	318
主任児童委員	1	0	4	2	2	8	2	0	0	0	0	0	0	0	1	66
学生	9	0	2	14	1	14	0	3	0	2	3	0	20	21	4	163
一般	2	1	6	38	2	13	7	3	2	10	10	3	13	6	30	415
その他	3	5	5	6	0	3	5	2	2	0	6	1	7	1	8	215
不明・無回答	0	0	0	1	0	0	2	0	0	3	1	1	2	0	3	40
養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）																
区報・市報・ホームページ	3	1	10	23	1	26	16	5	9	2	5	7	12	3	48	550
ポスターで	2	0	0	7	0	4	2	2	2	5	6	2	4	2	5	139
児相・子ども家庭支援センター	1	4	2	24	3	18	12	7	2	1	4	4	7	8	18	435
児童福祉施設	1	1	3	6	0	0	4	2	1	0	8	1	11	0	6	148
インターネットで	1	0	0	0	0	6	3	0	2	0	3	0	4	3	1	64
テレビ番組	0	0	1	3	0	2	2	2	1	2	0	2	4	4	11	85
テレビ CM	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
ラジオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新聞・雑誌	0	0	0	2	0	2	2	2	0	1	1	1	3	1	0	80
知人・友人	0	2	0	7	2	3	2	2	0	3	3	1	7	4	2	123
図書	2	1	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	2	0	0	25
公開講座	2	0	1	14	1	9	0	1	0	1	4	0	13	10	3	128
その他	5	3	3	26	1	18	5	1	0	0	4	3	9	10	26	273
不明・無回答	1	1	0	1	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0	5	37
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）																
区報・市報で	2	4	4	13	1	11	17	2	8	3	6	3	8	5	18	339
都報で	0	1	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	3	2	2	59
ポスターで	0	3	0	1	0	5	1	3	1	11	5	0	0	1	2	72
チラシで	5	1	13	22	5	12	11	6	5	0	7	6	19	15	10	411
インターネットで	1	0	0	0	1	5	4	0	2	0	3	2	6	1	3	69
知人に勧められて	2	0	1	8	1	1	2	1	0	2	3	1	5	4	4	133
過去に参加	1	0	0	10	0	17	9	5	0	0	3	2	4	5	4	210
問い合わせた	0	0	0	2	0	4	1	0	0	0	0	0	2	0	3	40
その他	4	3	2	41	1	21	7	3	0	0	6	3	15	14	33	420
不明・無回答	2	0	0	1	0	3	0	1	0	0	0	0	1	0	2	47
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）																
養育家庭になりたいと思っていたから	0	0	0	5	0	1	0	4	1	1	3	2	4	1	4	81
養育家庭制度に興味・関心があったから	9	2	14	24	4	33	9	5	9	4	18	7	17	10	31	544
子育てに関わる話が聞けると思ったから	3	0	2	18	1	20	12	3	9	4	5	4	9	6	24	435
仕事や学問などの参考にするため	7	9	8	55	3	20	8	6	6	3	13	3	25	18	29	583
その他	2	3	0	11	1	7	3	3	1	2	1	1	2	3	9	156
不明・無回答	0	0	0	0	0	2	3	0	0	4	0	0	1	0	3	49
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																
とても良かった	6	2	14	54	5	29	19	14	6	8	19	7	20	23	61	878
良かった	8	10	7	26	3	21	6	1	4	1	6	7	22	5	31	479
普通	0	1	0	6	0	4	0	0	0	0	0	0	4	0	1	51
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	1	0	0	4	1	9	8	1	8	6	2	1	4	8	5	130
感想数	11	9	15	49	2	35	22	10	13	4	17	7	16	20	56	779
アンケート回答	16	13	21	90	9	63	33	16	18	15	27	15	50	36	98	1,551
参加者総数	27	34	39	157	24	73	51	31	34	40	35	29	65	46	159	2,610

養育家庭制度は、いろいろな理由で親と一緒に暮らすことのできない子供たちを、養子縁組を目的としないで、家庭に迎え一緒に生活し、養育していただく里親制度です。

【ほっとファミリー(養育家庭)を、詳しく知りたい。】

★ 申し込み資格は？

○ 都内にお住まいで 25 歳以上 65 歳未満のご夫婦。

※ただし、65 歳以上であっても短期条件付・レスパイト限定付にお申し込みできます。

配偶者がいない場合は、子供の養育経験又は保育士や看護師の資格があり、かつ、養育の補助ができる 20 歳以上の子又は父母等が同居している方。

○ 居室が 2 室 10 畳以上ある。

★ どのような子供を預かるの？

○ 親の離婚、家出、病気、虐待等の理由で、親と一緒に暮らすことができない、おおむね 18 歳までの子供です。

★ 預かる期間は？

○ 原則として 1 か月以上です。

○ 2 年を超える場合、2 年ごとに子供を継続して預かるかどうかの意思を確認させていただきます。

★ 養育に係る費用は？

○ 日常生活や教育費などの養育費は、児童養護施設等に入所している児童と同等の額が支払われます。

○ 養育家庭への手当が支払われます。

★ 養育に必要な支援は？

○ 児童相談所が中心となって支援を行います。

○ 養育に疲れた場合には、子供の養育から一時的に離れて休息できる制度があります。

○ ほっとファミリー同士が集う相互交流の機会があります。

○ 経験豊富なほっとファミリーが電話で相談に応じます。

○ 研修などに参加し、養育に必要な知識を学ぶことができます。

【養育家庭制度に関するお問い合わせ先】

東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課里親係

〒163-8001　新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話　０３－５３２０－４１３５

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html

こちらのホームページもご覧下さい。
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html

養育家庭体験発表集
平成26年9月発行

登 録 番 号(26)120

発　行　東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話03(5320)4135　ﾌｧｸｼﾐﾘ03(5388)1406
印刷所　東京コロニー 東京都大田福祉工場
東京都大田区大森西二丁目22番26号
電話03(3762)7611

石油系溶剤を含まないインキを使用しています。